ごみ処理施設整備事業　環境影響評価
中間報告書（1回目）



本日の説明内容

1. はじめに	3 ～ 9
2. 知事意見への対応概要	10
3. 創出環境の具体化内容及び環境影響評価	11 ～ 24
4. 芝生広場の具体化内容及び環境影響評価	25 ～ 26
5. 施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価	27 ～ 70
6. 事後調査の結果、環境保全措置の再検討	71 ～ 73
7. 総括	74～ 75

１．はじめに（１）
環境影響評価手続の経過

図書の種別	手続期間
環境影響評価方法書	縦覧期間：令和3年11月1日～令和3年11月30日 意見書提出期限：令和3年12月14日 意見概要書等の提出：令和3年12月24日 公聴会開催：令和4年2月11日 知事意見送付：　令和4年3月22日
環境影響評価準備書	縦覧期間：令和6年3月12日～令和6年4月11日 意見書提出期限：令和6年4月25日 意見概要書等の提出：令和6年5月23日 公聴会開催：令和6年7月13日 知事意見送付：令和6年9月19日
環境影響評価評価書	知事への送付：　令和7年1月28日 知事意見送付：　令和7年3月28日
環境影響評価補正評価書	知事への送付：　令和7年5月19日 縦覧期間：　令和7年5月20日～令和7年6月20日
事業着手届	知事への提出：　令和7年7月17日 （事業着手日　令和7年5月26日）

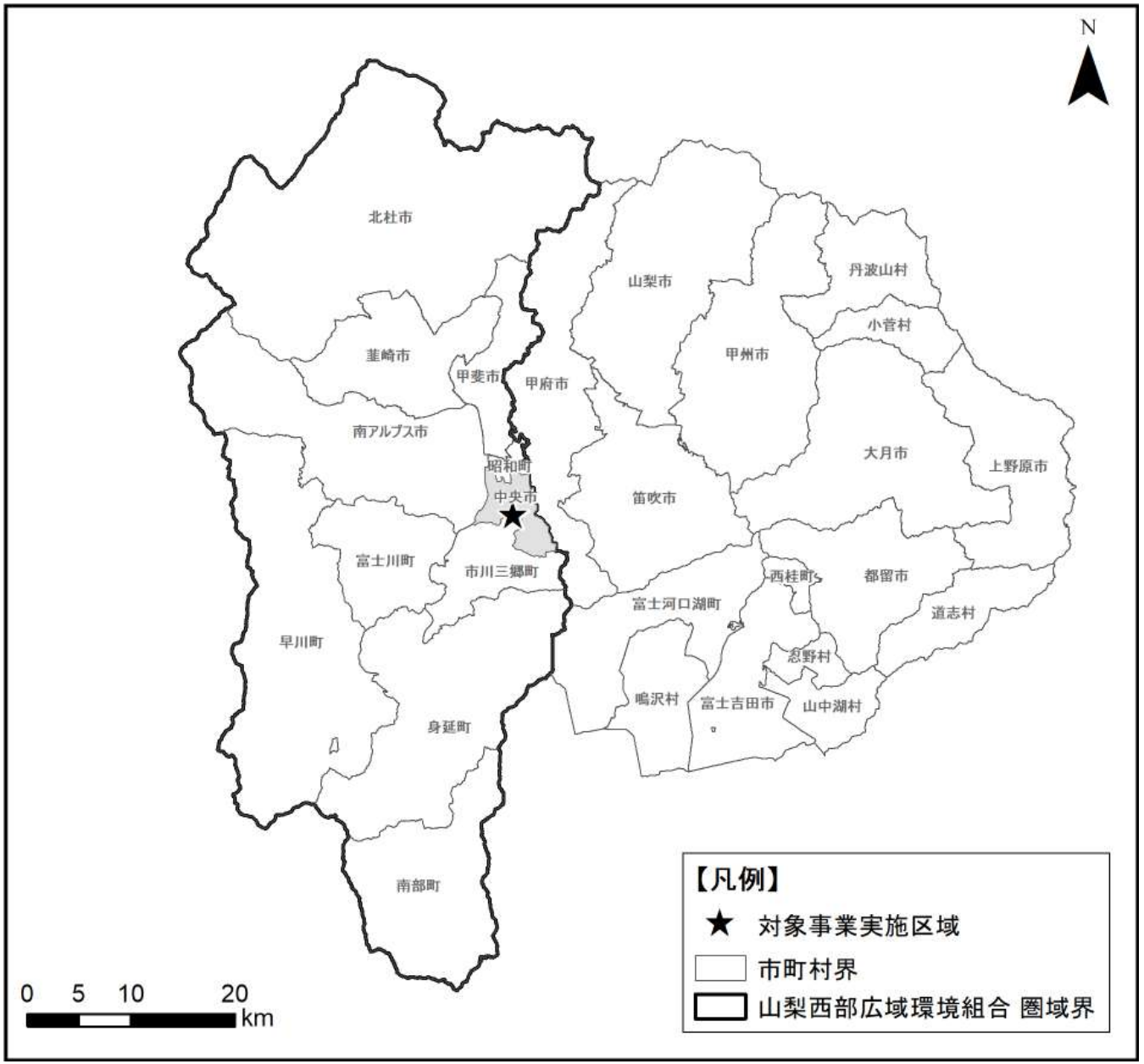
１．はじめに（２）
対象事業の名称、種類、規模、位置

中間報告書 p.1-1 (1)

対象事業の名称	山梨西部広域環境組合　ごみ処理施設整備事業
対象事業の種類	廃棄物処理施設の設置（ごみ焼却施設） （山梨県環境影響評価条例第二条　別表第六号）
対象事業の規模	1時間当たりの処理能力の合計　約11.4トン （274トン/日、137トン/日×2炉）
対象事業実施区域	山梨県中央市浅利230番3　ほか

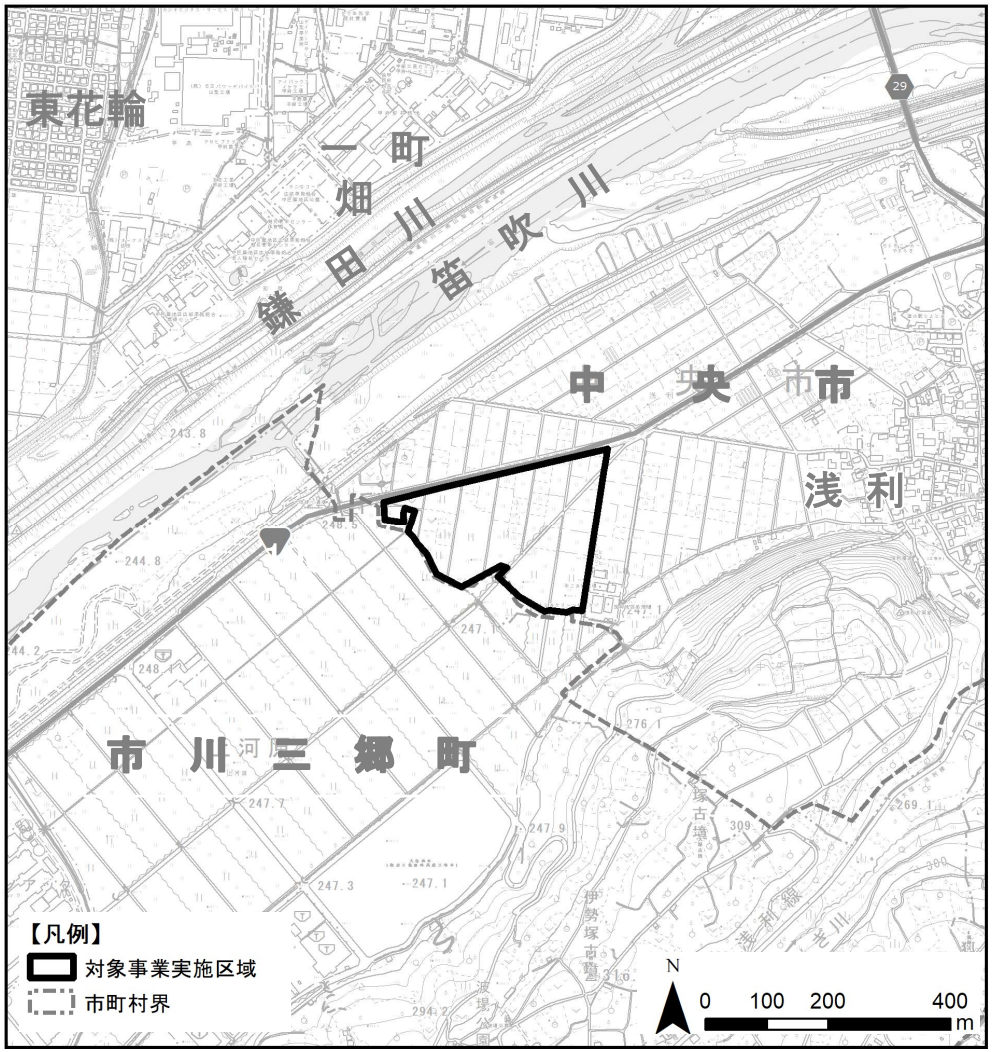
1．はじめに（3）
対象事業実施区域の位置（1）

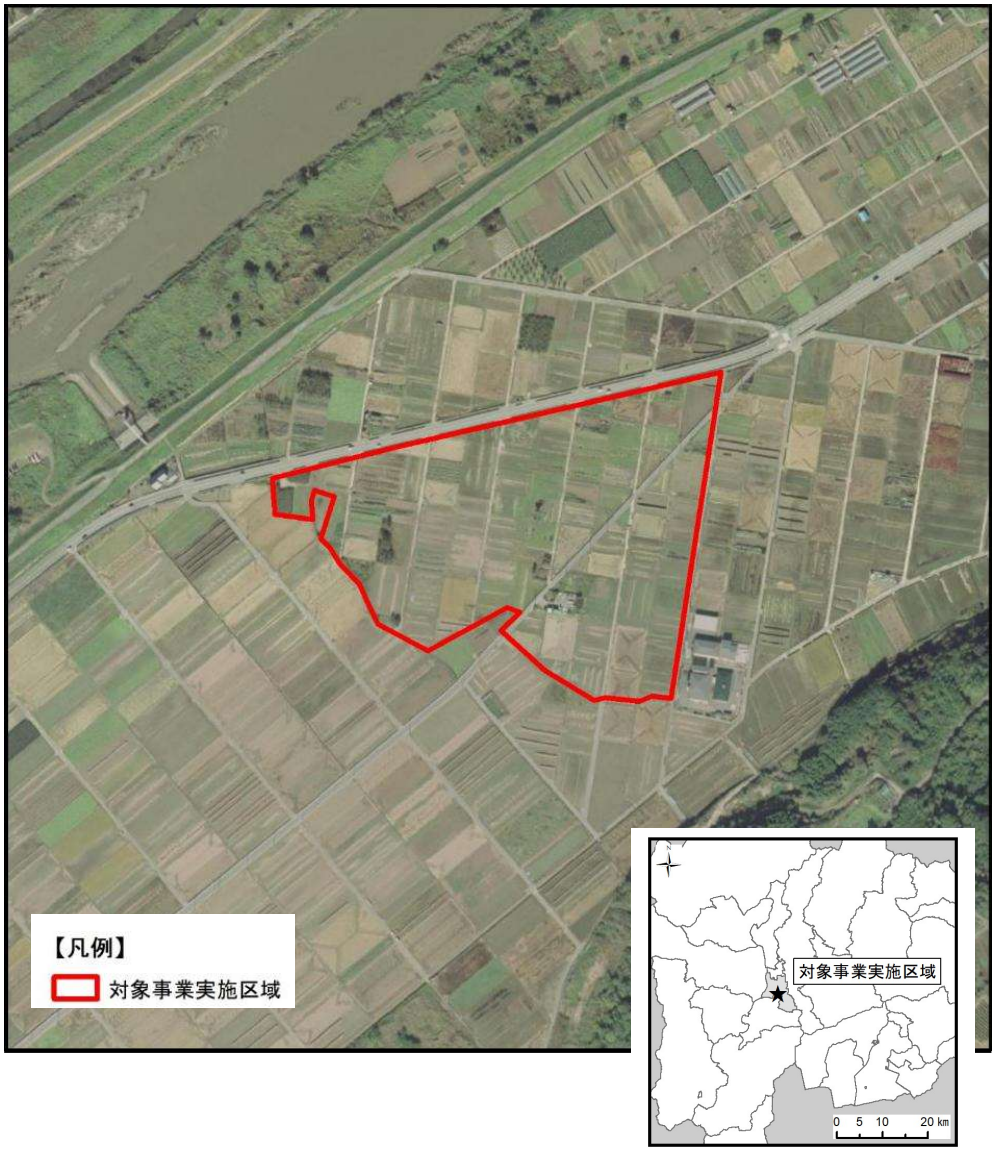
中間報告書 p.1-2～1.3 (2～3)



1．はじめに（４）
対象事業実施区域の位置（2）

中間報告書 p.1-4～1.5 (4～5)



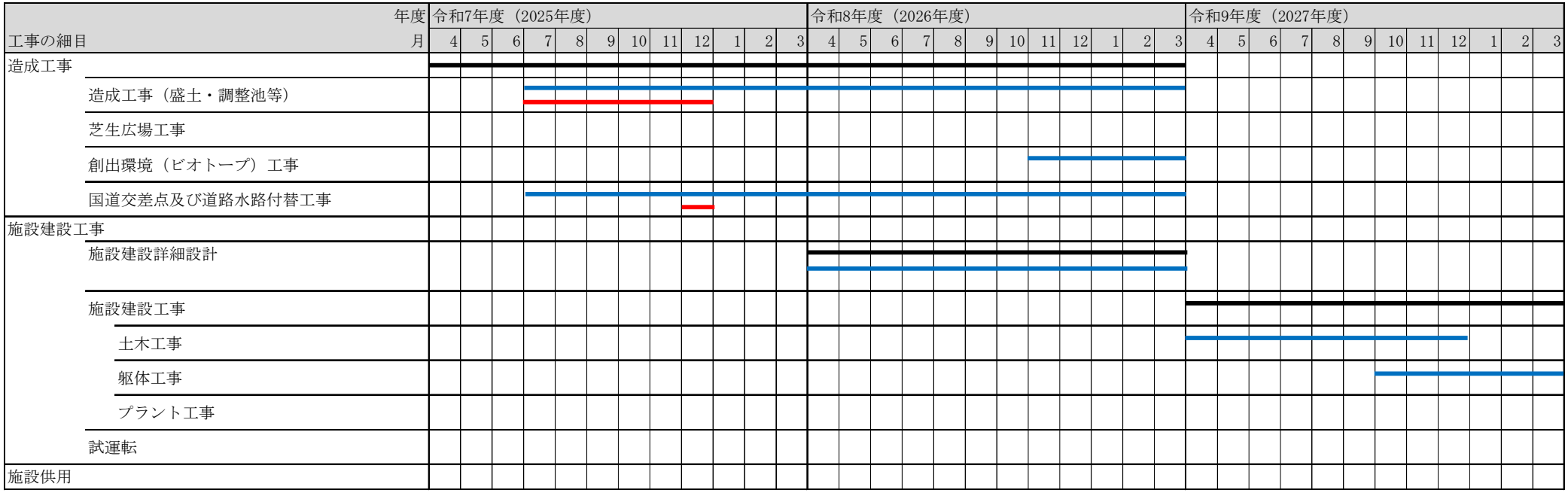


１．はじめに（５）
環境影響評価項目

環境影響評価項目	大気汚染、悪臭、騒音、低周波音、振動、 水質汚濁（水質、地下水の水質）、 水象（表流水、地下水）、 地盤沈下、土壌汚染、日照阻害、 植物・動物（陸上植物、陸上動物、水生生物）、 生態系（地域を特徴づける生態系）、 景観・風景、人と自然との触れ合い活動の場、 廃棄物・発生土、大気汚染物質・水質汚濁物質、 温室効果ガス等、地域交通

1．はじめに（６）
工事の実施状況（１）

工事工程案及び実績（R7～R9）



注）**黒実線**は補正環境影響評価書での工事工程を、**青実線**は令和7年12月時点での工事予定を、**赤実線**は令和7年12月時点での工事実績を示す。

1．はじめに（7）
工事の実施状況（2）

中間報告書 p.1-36 (36)

工事工程案（R10～R12）

工事の細目	年度	令和10年度（2028年度）												令和11年度（2029年度）												令和12年度（2030年度）											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成工事																																					
	造成工事（盛土・調整池等）																																				
	芝生広場工事																																				
	創出環境（ビオトープ）工事																																				
	国道交差点及び道路水路付替工事																																				
施設建設工事																																					
	施設建設詳細設計																																				
	施設建設工事																																				
	土木工事																																				
	躯体工事																																				
	プラント工事																																				
	試運転																																				
施設供用																																			令和13年度供用開始	

注）**黒実線**は補正環境影響評価書での工事工程を、**青実線**は令和7年12月時点での工事予定を、**赤実線**は令和7年12月時点での工事実績を示す。

2．知事意見への対応概要

中間報告書 p.3-7 (47)
p.5-14 (204)～p.5-15 (205)

評価書についての知事意見の概要
準備書の知事意見に対して、計画は検討中とのことであり、必要な環境影響評価が行われていない。 よって、内容が具体化した段階で、環境影響評価を行うこと。そのうえで、県民等からの意見を環境影響評価に反映できるように、中間報告書手続きの時期について県と協議すること。
① 創出環境の構造・維持管理計画
② 芝生広場の構造
③ 施設の形状・色彩等

項目	評価書時点	今回具体化した内容
① 創出環境の構造・維持管理計画	基本方針のみ	機能配置、構造、面積、植栽計画を決定
② 芝生広場の構造	配置のみ	構造、面積、植栽配置を決定
③ 施設の形状・色彩等	概略イメージ	施設規模、煙突高、施設形状、配色計画を決定

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（１）

創出環境の概要

中間報告書 p.1-29 (29)

創出する環境	目的及び特徴	移植・移設する保全対象種
池	目的：水温及び水勢の調整と生息環境の創出 特徴：地下水の水温を上げ適正な水源に変化させる。ミナミメダカの産卵床となる水草等も移植する。	ミナミメダカ
止水域	目的：流れがほとんどない水域の創出 特徴：池の水位調整を利用した分断可能な止水環境（タイドプール型）。シャジクモ生育適地。	シャジクモ、ミナミメダカ、（コウフオカモノアラガイ）、ヒラマキミズマイマイ、ヒメヒラマキミズマイマイ
水辺エコトーン	目的：水辺の生育・生息環境の創出 特徴：水位調整を利用した傾斜地。湿性植物の生育の他、貝類、コガムシ生息地になりうる環境。	ウスゲチョウジタデ、コギシギシ、カワヂシャ、ミゾコウジュ、ヒラマキミズマイマイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、コガムシ
水田に類似する湿地環境	目的：水田に類似した生育環境の創出 特徴：水位調整による環境攪乱により、生育環境を維持管理する圃場的環境。	ウスゲチョウジタデ、コギシギシ、カワヂシャ、ミゾコウジュ、（コウフオカモノアラガイ）

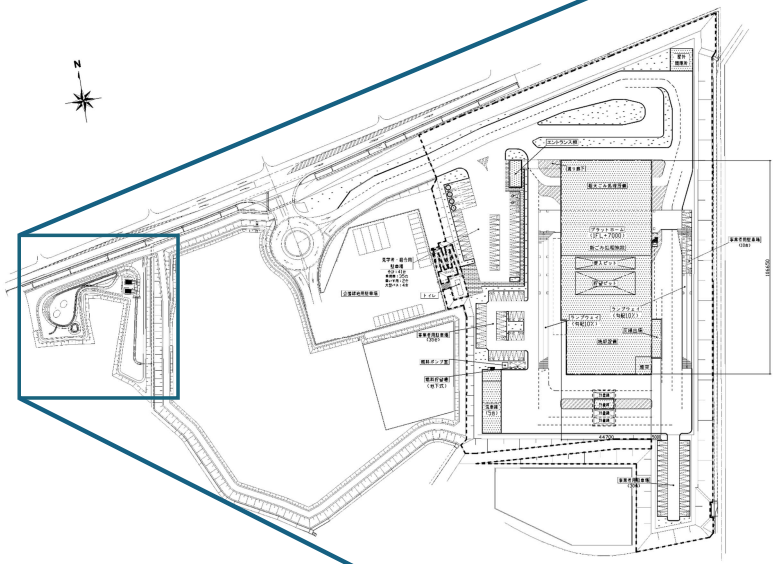
3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（２）

創出環境の配置

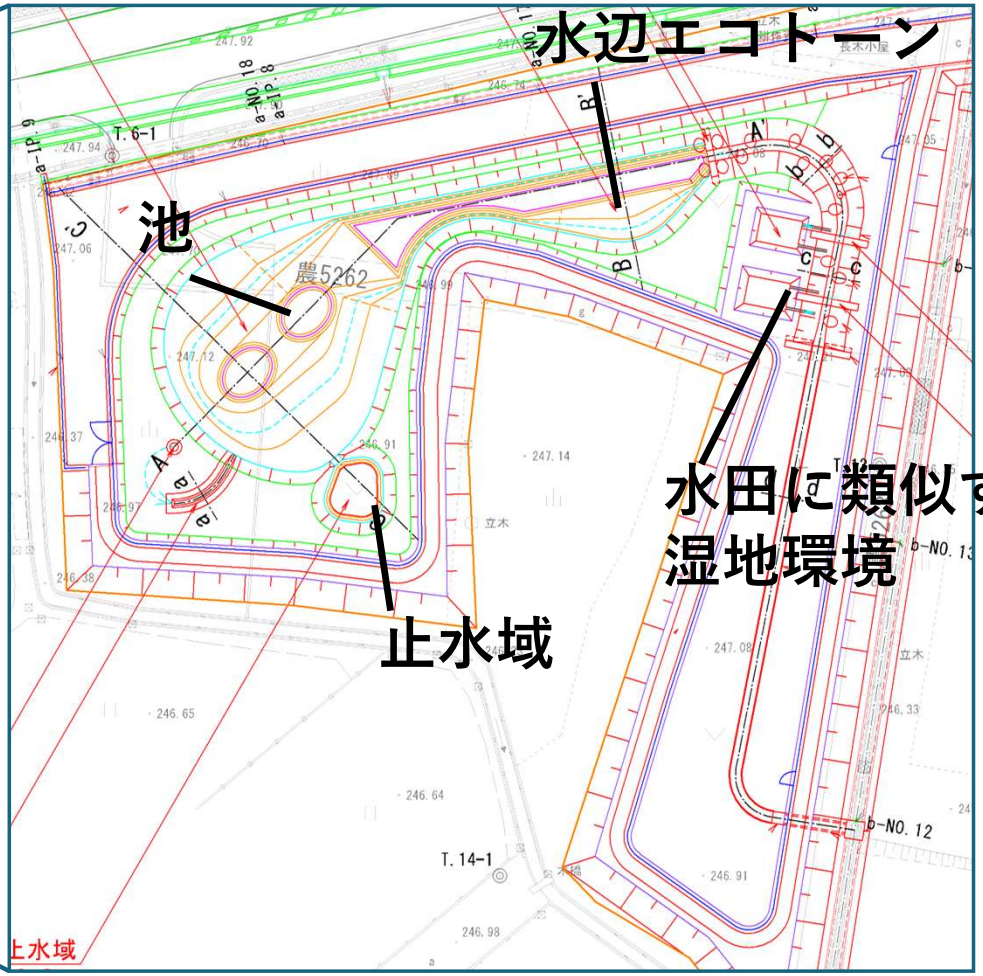
中間報告書 p.1-30 (30)

創出環境機能配置

全体図



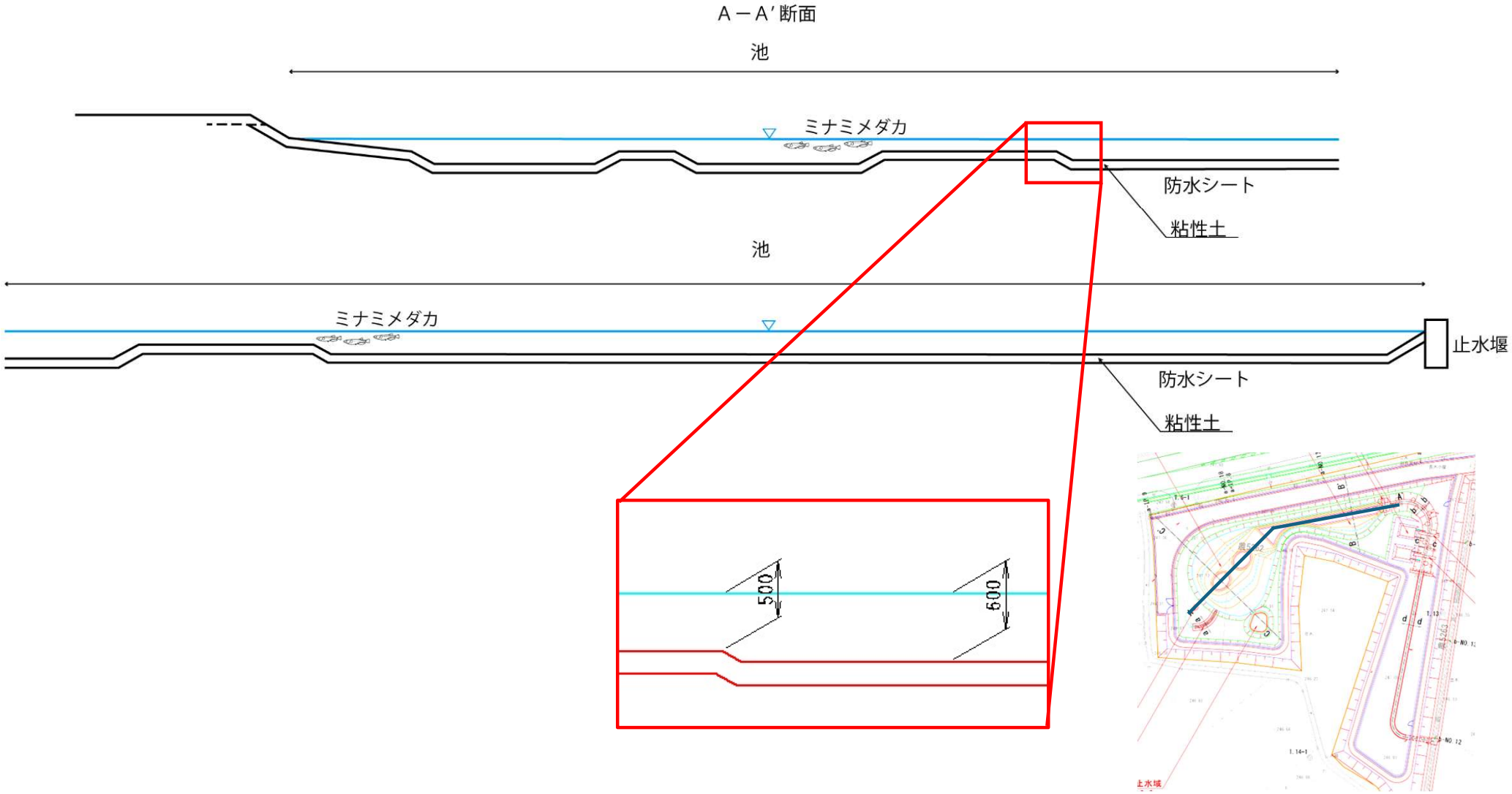
拡大図



3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（３）

創出環境の構造　～池～

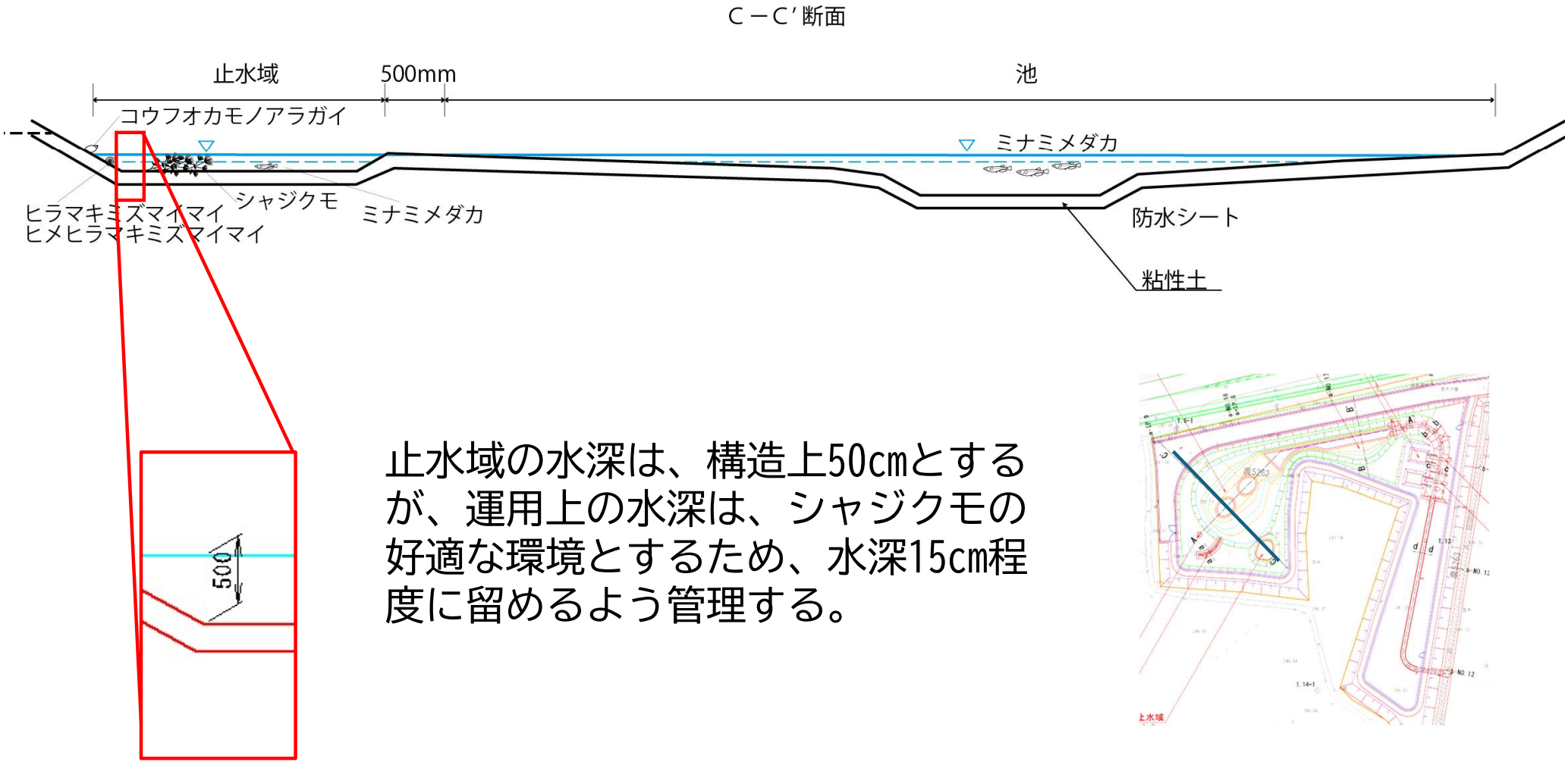
中間報告書 p.4-21 (69)



3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（４）

創出環境別の構造　～止水域～

中間報告書 p.4-22 (70)

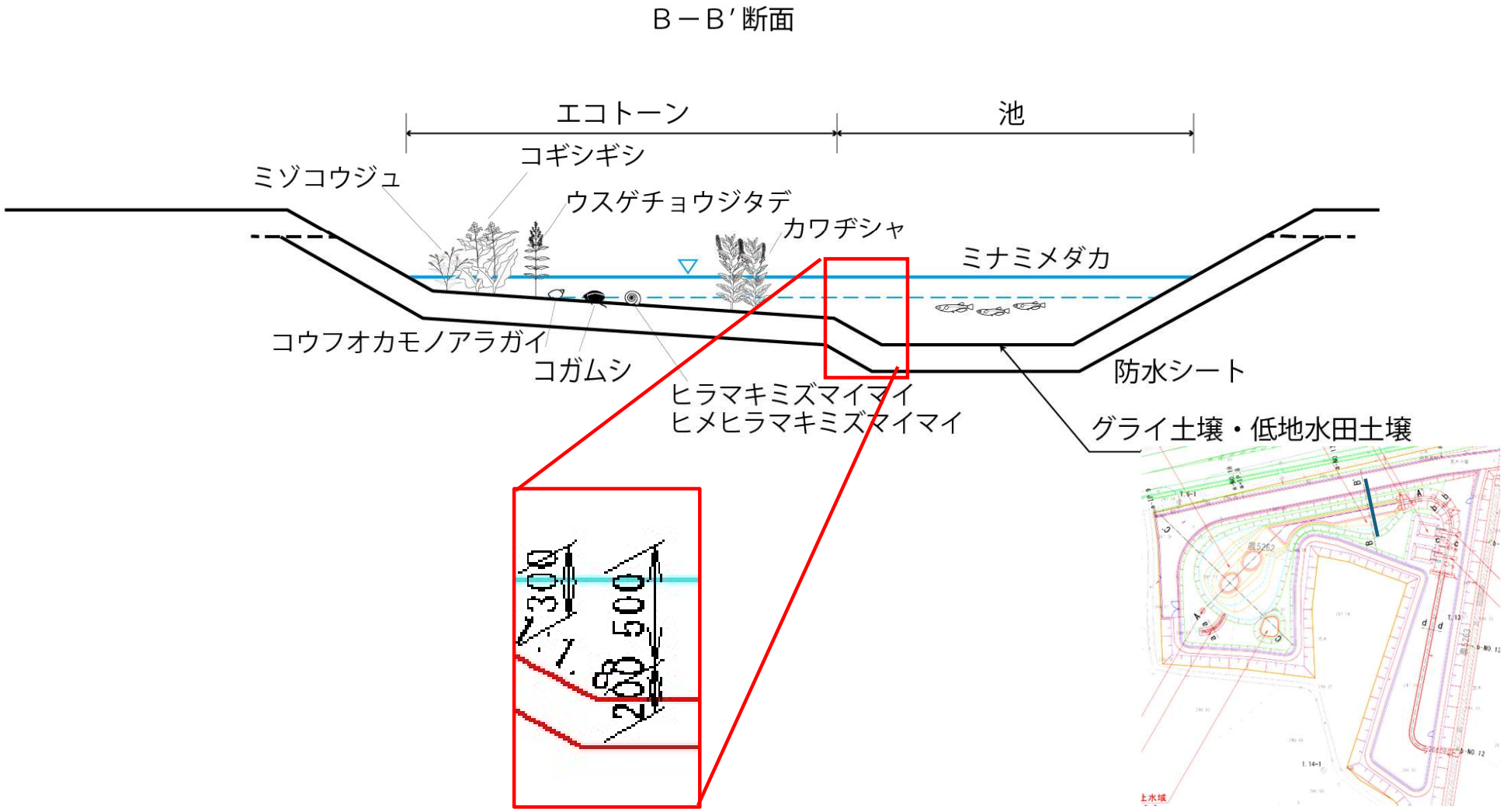


止水域の水深は、構造上50cmとするが、運用上の水深は、シャジクモの好適な環境とするため、水深15cm程度に留めるよう管理する。

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（５）

創出環境別の構造　～水辺エコトーン～

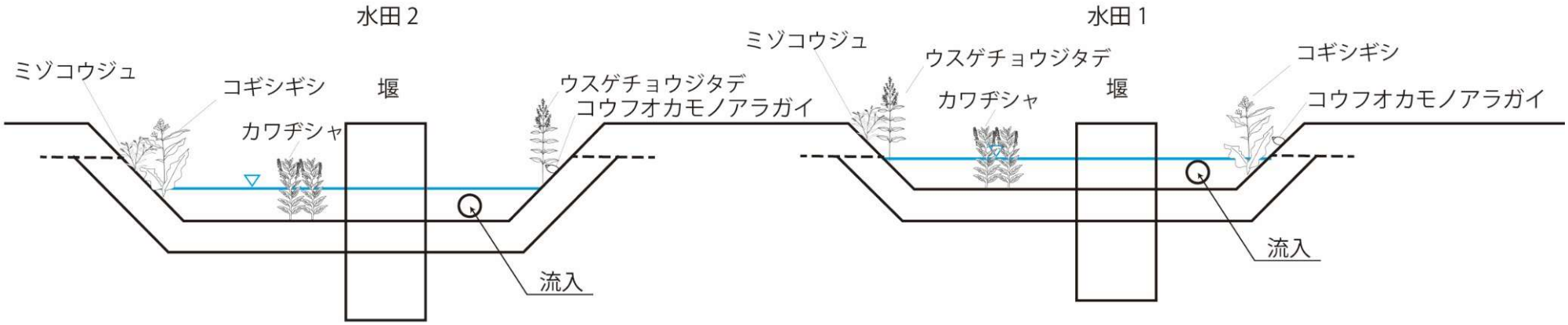
中間報告書 p.4-21 (69)

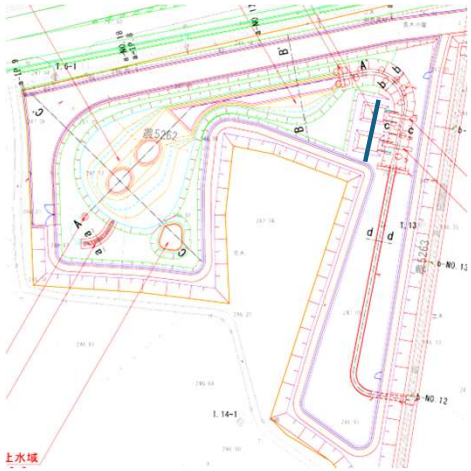


3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（６）

創出環境別の構造　～水田に類似する湿地環境～

中間報告書
p.4-22 (70)





水田に類似する湿地環境の
水深は最大20㎝程度とする。

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（７）
維持管理計画

創出する環境	維持管理計画の概要
池	• ミナミメダカの遺伝子交雑防止のため、最下流の堰は常時閉鎖 • アオコ発生防止のため、一定の水循環が行われるように管理 • アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入防止（定期的なモニタリングと除去）
止水域	• シャジクモの好適環境とするため、水深15cm程度で管理 • アオコ発生防止のため、一定の水循環が行われるように管理 • アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入防止（定期的なモニタリングと除去）
水辺エコトーン	• 水位変化による環境撹乱により保全対象種の生育を維持 • 多年生抽水植物の除去
水田に類似する湿地環境	• 水位変化による環境撹乱により保全対象種の生育を維持 • 多年生抽水植物の除去 • 踏み荒らしによる土壌の踏み固め・乾燥化防止のため、立ち入り制限

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（８）
予測・評価　～陸上植物～

中間報告書 p.4-7 (55)～p.4-14 (62)

予測対象種	確認位置	影響の有無	
		工事中	存在・供用時
サネカズラ	外	－	－
ハマスゲ	外	－	－
ミズマツバ	外	－	－
ウスゲチョウジタデ	内・外	●	●
コイヌガラシ	外	－	－
コギシギシ	内・外	●	●
カワヂシャ	内・外	●	●
ミゾコウジュ	内・外	●	●

※確認位置
　内：対象事業実施区域内で確認
　外：対象事業実施区域外で確認
影響の有無
　●：影響が予測される
　▲：影響は小さいと予測される
　－：影響はないと予測される

ウスゲチョウジタデ、コギシギシ、カワヂシャ、
ミゾコウジュの4種を保全対象種とする

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（９）
予測・評価　～陸上植物～

中間報告書 p.4-17 (65)～p.4-27 (75)

保全対象種：ウスゲチョウジタデ、コギシギシ、カワヂシャ、ミゾコウジュ

↓

回避措置：事業予定地の変更は困難

↓

最小化措置：事業予定地の最小化は困難

↓

代償措置：生育環境の創出、生育個体及び個体群の移植、播種
または埋土種子の撒き出し

↓

上記環境保全措置を講ずることにより影響は代償されると評価
事後調査を実施。環境保全措置の不確実性を担保するため、
保全措置後に生育状況を確認し、順応的管理を実施

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（10）
予測・評価　～陸上動物～

中間報告書 p.4-36 (84)～p.4-78 (126)

予測対象種	確認位置	影響の有無	
		工事中	存在・供用時
ニホンイタチ	外	▲	▲
カヤネズミ	内・外	▲	▲
ケリ	外	－	－
ハチクマ	外	－	－
ツミ	外	－	－
ハイタカ	外	▲	▲
オオタカ	内・外	▲	▲
サシバ	外	－	－
フクロウ	外	▲	▲
ハヤブサ	外	－	－
サンショウクイ	外	－	－
コシアカツバメ	外	－	－

予測対象種	確認位置	影響の有無	
		工事中	存在・供用時
トノサマガエル	外	▲	▲
ミカドミンミン	外	－	－
ｴﾉｷｶｲｶﾞﾗｷｼﾞﾗﾐ	外	－	－
コオイムシ	外	－	－
ｸﾛｱｼﾌﾞﾄﾊﾅｶﾒﾑｼ	外	－	－
セアカオサムシ	外	－	－
コガムシ	内・外	●	●
アオスジベッコウ	外	－	－
クロマルハナバチ	外	－	－
オオチャバネセセリ	外	－	－
ｺｳﾌｵｶﾓﾉｱﾗｶﾞｲ	内・外	●	●
ウメムラシタラ	外	－	－
カタマメマイマイ	外	－	－

※確認位置　内：対象事業実施区域内で確認
外：対象事業実施区域外で確認

影響の有無　●：影響が予測される
▲：影響は小さいと予測される
－：影響はないと予測される

コウフオカモノアラガイを保全対象種とする
コガムシは水生生物で取り扱う

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（11）
予測・評価　～陸上動物～

中間報告書 p.4-80 (128)～p.4-92 (140)

保全対象種：コウフオカモノアラガイ

↓

回避措置：事業予定地の変更は困難

↓

最小化措置：事業予定地の最小化は困難

↓

代償措置：生息環境の創出、生息個体及び個体群の移設による保全

↓

上記環境保全措置を講ずることにより影響は代償されると評価
事後調査を実施。環境保全措置の不確実性を担保するため、
保全措置後に生息状況を確認し、順応的管理を実施

※環境保全措置の実施に伴い支障が生じているため、環境保全措置の再検討を実施中

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（12）
予測・評価　～水生生物～

中間報告書 p.4-36 (84)～p.4-78 (126)

予測対象種	確認位置	影響の有無	
		工事中	存在・供用時
シャジクモ	内・外	●	●
カワヂシャ	内・外	●	●
ミナミメダカ	内・外	●	●
コオイムシ	外	－	－
コガムシ	内・外	●	●
ﾋﾗﾏｷﾐｽﾞﾏｲﾏｲ	内・外	●	●
ﾋﾒﾋﾗﾏｷﾐｽﾞﾏｲﾏｲ	内	●	●

※確認位置
　内：対象事業実施区域内で確認
　外：対象事業実施区域外で確認
影響の有無
　●：影響が予測される
　▲：影響は小さいと予測される
　－：影響はないと予測される

シャジクモ、カワヂシャ、ミナミメダカ、コガムシ、
ヒラマキミズマイマイ、ヒメヒラマキミズマイマイの
6種を保全対象種とする

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（13）
予測・評価　～水生生物～

中間報告書 p.4-99 (147)～p.4-120 (168)

保全対象種：シャジクモ、カワヂシャ、ミナミメダカ、コガムシ、ヒラマキミズマイマイ、ヒメヒラマキミズマイマイ

↓

回避措置：事業予定地の変更は困難

↓

最小化措置：事業予定地の最小化は困難

↓

代償措置：生育・生息環境の創出、生育個体及び個体群の移植、播種または埋土種子の撒き出し、生息個体及び個体群の移植

↓

上記環境保全措置を講ずることにより影響は代償されると評価
事後調査を実施。環境保全措置の不確実性を担保するため、
保全措置後に生育・生息状況を確認し、順応的管理を実施

3．創出環境の具体化内容及び環境影響評価（14）
予測・評価　～生態系～

中間報告書 p.4-36 (84)～p.4-78 (126)

地域生態系の予測対象種	確認位置	影響の有無	
		工事中	存在・供用時
上位性注目種 オオタカ	内・外	▲	▲
典型性注目種 ヒバリ	内・外	▲	▲
典型性注目種 ~~トノサマガエル~~ ニホンアマガエル	内・外	▲	▲

注）赤字の部分は、資料に誤りがあったため訂正した部分

※確認位置
内：対象事業実施区域内で確認
外：対象事業実施区域外で確認
影響の有無
●：影響が予測される
▲：影響は小さいと予測される
－：影響はないと予測される

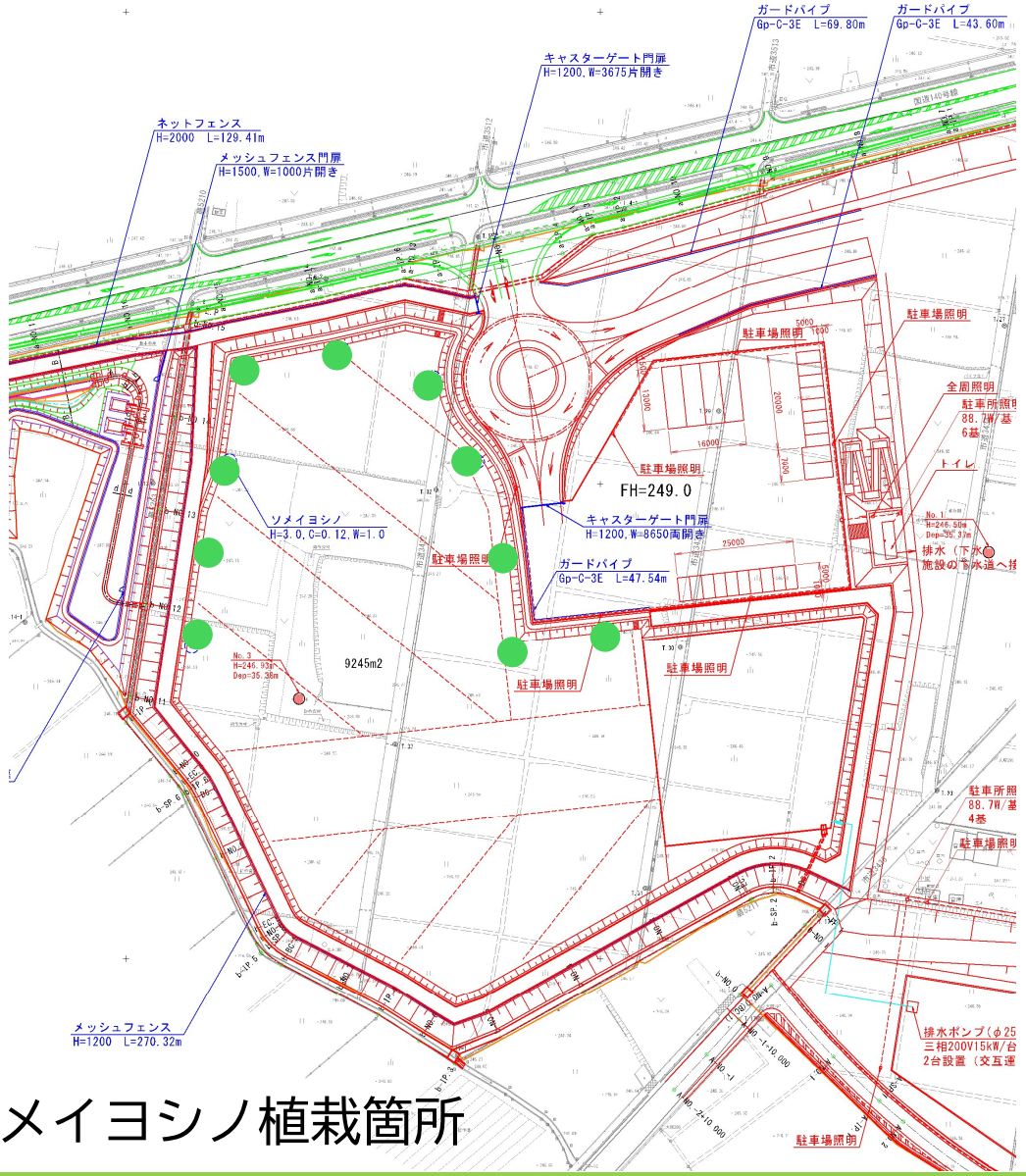
地域生態系の注目種においては、事業実施に伴う影響が小さく、環境保全措置は講じない。陸上植物・陸上動物・水生生物の環境保全措置を実施することで、地域生態系に係る環境影響も実行可能な範囲で代償されており、環境の保全についての配慮ができる限りなされていると評価

４．芝生広場の具体化内容及び環境影響評価（１）

芝生広場の配置・構造

中間報告書 p.1-31（p.31）

- 新ごみ処理施設の稼働期間中、次期ごみ処理施設用地は、公園緑地として芝生広場を整備する。
- 緑地を半周するようにソメイヨシノを植栽
- 平坦な芝生を張った空間を創出
- 芝生広場の面積は約0.92ha



● ソメイヨシノ植栽箇所

4．芝生広場の具体化内容及び環境影響評価（２）
予測・評価　～植生面積変化～

中間報告書 p.4-22（70）

群落名※	対象事業実施区域				調査範囲（周辺200m）			
	改変前		改変後		改変前		改変後	
	面積（ha）	割合（%）	面積（ha）	割合（%）	面積（ha）	割合（%）	面積（ha）	割合（%）
コガマ群落	0.13	2.31	0.00	0.00	0.18	0.47	0.05	0.13
オギ群落	0.17	3.01	0.00	0.00	0.54	1.38	0.37	0.93
外来沈水植物群落	0.02	0.38	0.00	0.00	0.04	0.10	0.02	0.05
畑雑草群落	0.67	11.54	0.00	0.00	3.34	8.48	2.67	6.79
水田雑草群落	2.92	50.56	0.00	0.00	18.80	47.74	15.88	40.31
放棄畑雑草群落	0.19	3.29	0.00	0.00	1.16	2.95	0.97	2.46
放棄水田雑草群落	1.00	17.36	0.00	0.00	3.02	7.66	2.01	5.11
路傍・空地雑草群落	0.19	3.31	0.00	0.00	1.24	3.15	1.05	2.67
芝地	—	—	0.92	15.92	0.04	0.10	0.96	2.44
住宅地・墓地等	0.06	1.05	4.71	81.48	0.50	1.27	5.15	13.07
道路	0.31	5.43	0.00	0.00	3.95	10.04	3.64	9.24
自然裸地・開放水域（河川、水路・調整池）	0.10	1.75	0.15	2.60	1.00	2.54	1.05	2.67
合計	5.78	100.00	5.78	100.00	39.39	100.00	39.39	100.00

※対象事業実施区域内に存在する群落等を抽出した。

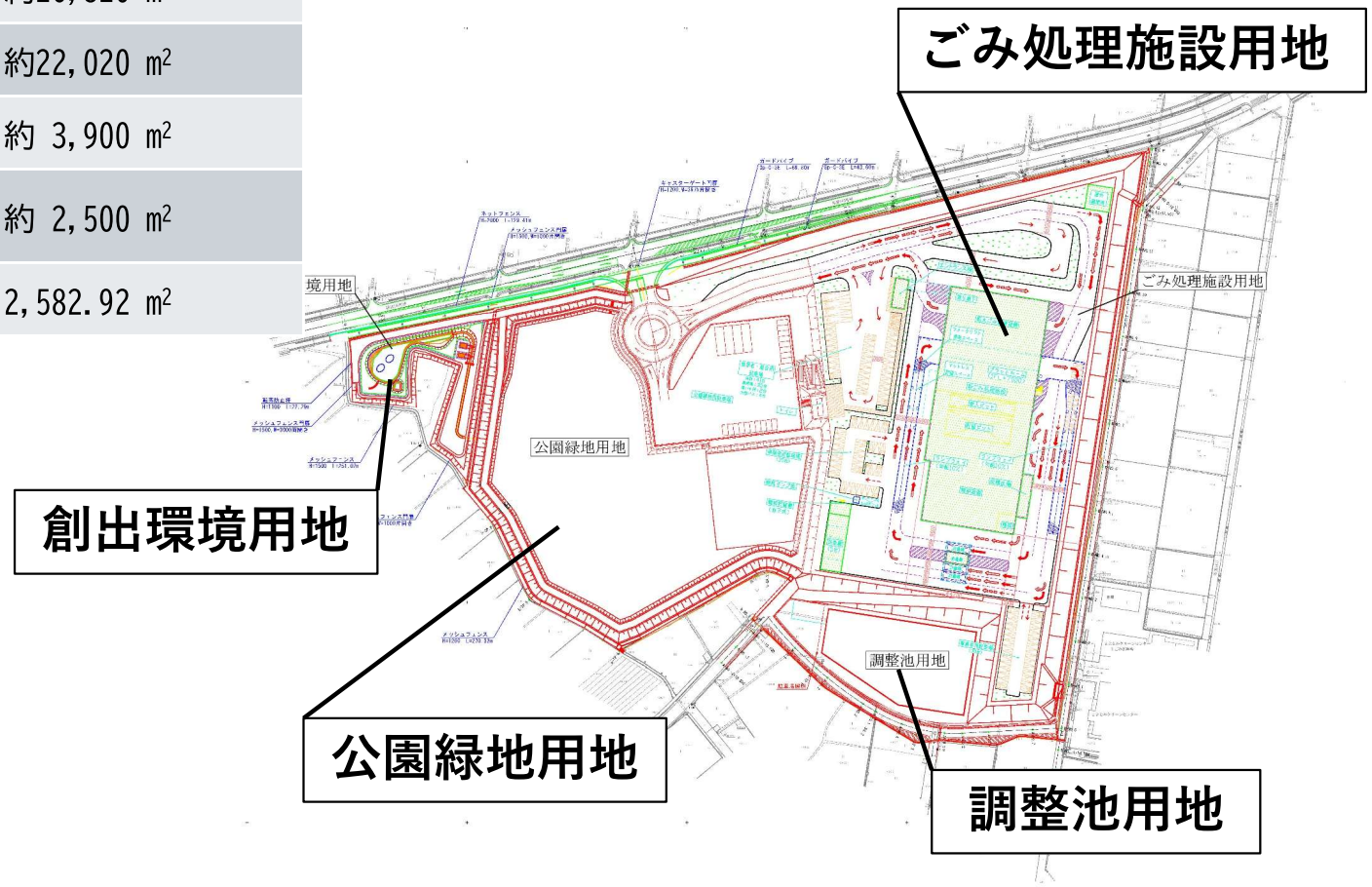
補正評価書予測時点より、芝地が0.92ha増加し、住宅地・墓地等が0.92ha減少すると予測。保全すべき種の生育・生息基盤としては特に変化なし。

5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（１）

全体施設配置

中間報告書 p.1-11 (11), p.1-20 (20)

項目		面積
用地　総面積※		57,828.51 ㎡
	ごみ処理施設用地	約26,820 ㎡
	公園緑地用地	約22,020 ㎡
	調整池用地	約 3,900 ㎡
	創出環境用地	約 2,500 ㎡
	付替道路・水路用地	2,582.92 ㎡

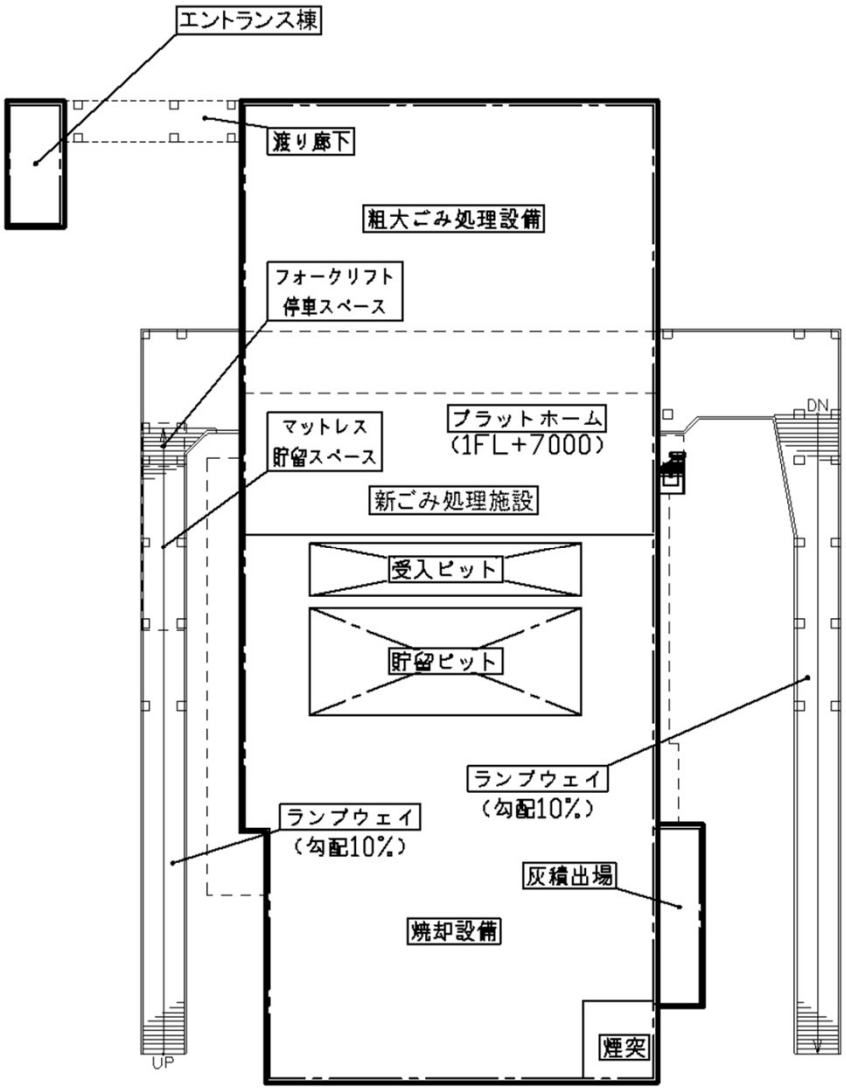


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（２）

施設規模・面積

中間報告書 p.1-13 (13)

施設名	施設の規模	構造
ごみ焼却施設・ごみ処理施設	幅44.7m×奥行106.7m×高さ35.0m 煙突高：59.0m	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
エントランス棟	幅13m×奥行6.3m×高さ19m	鉄骨造
計量棟	幅12m×奥行17m×高さ6m	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
洗車棟	幅31.7m×奥行9.7m×高さ7.1m	鉄筋コンクリート造

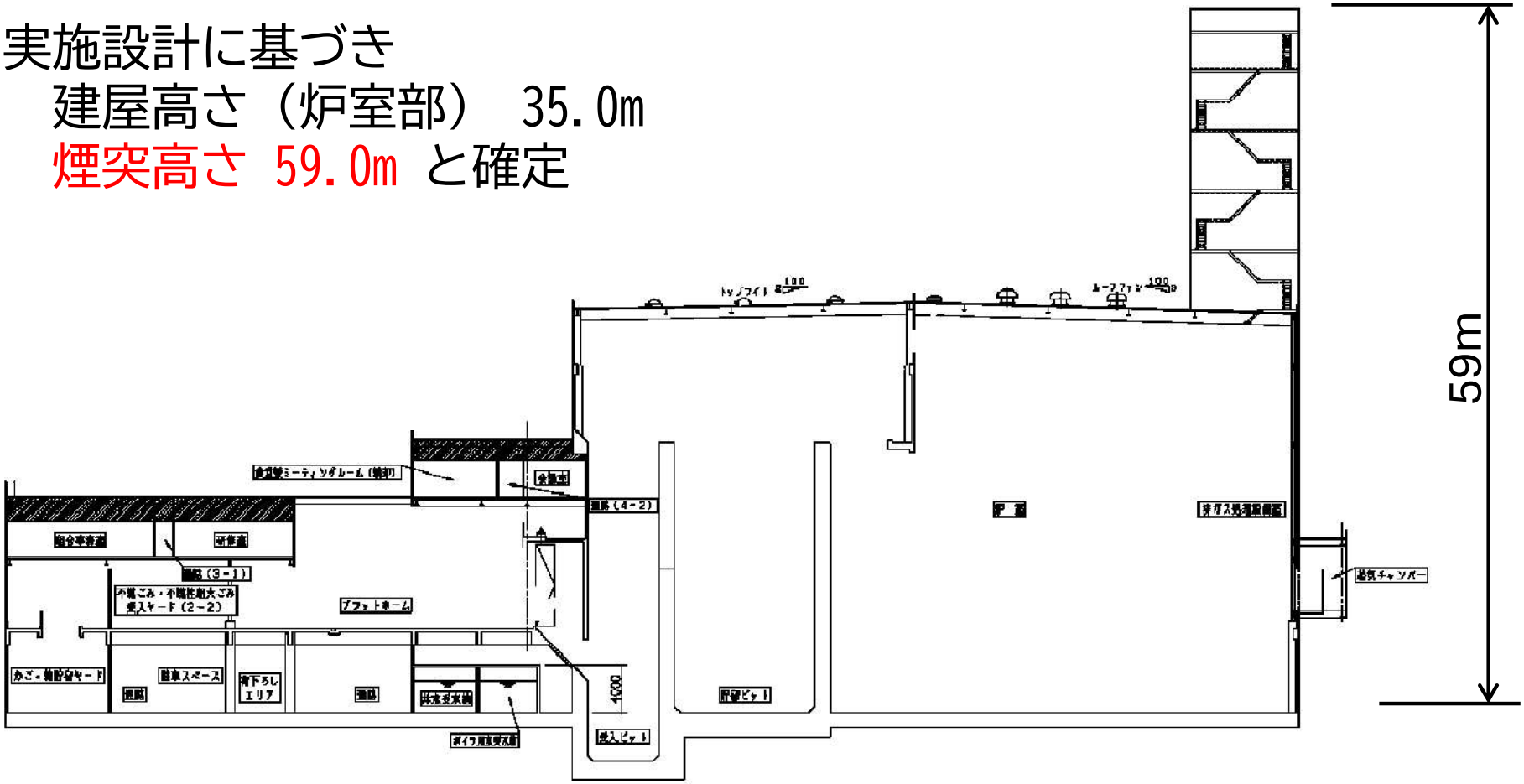


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（３）

ごみ処理施設断面図

中間報告書 p.1-14 (14)

実施設計に基づき
　建屋高さ（炉室部）　35.0m
　煙突高さ 59.0m と確定

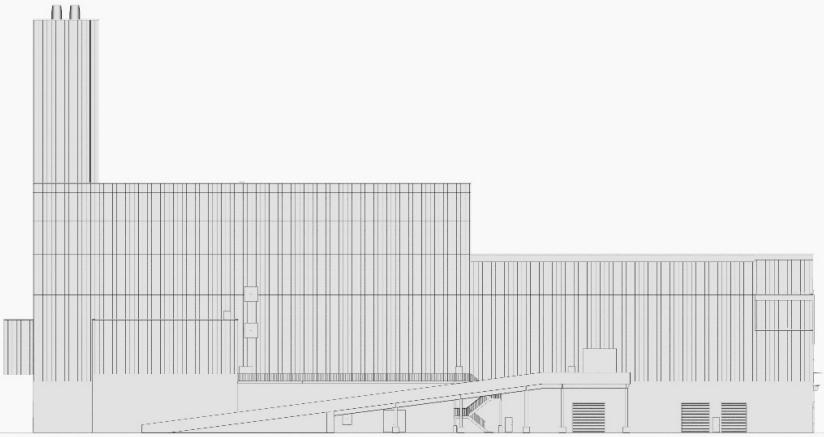


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（４）

ごみ処理施設立面図

中間報告書 p.1-14 (14) ～ p.1-15 (15)

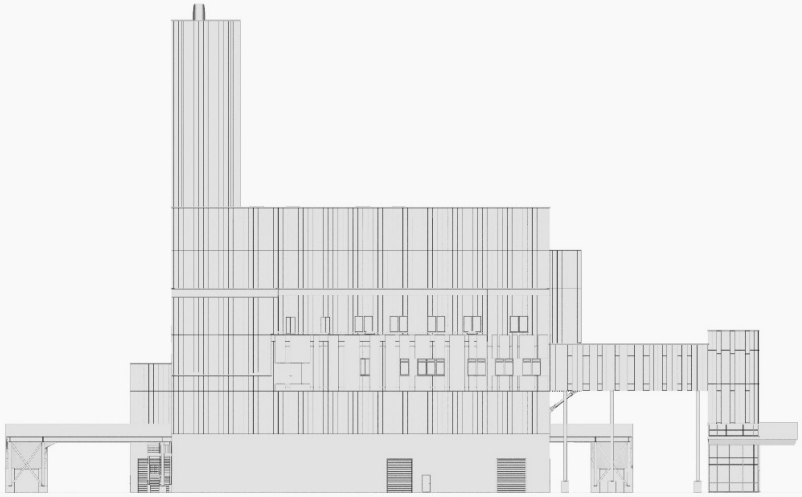
東面



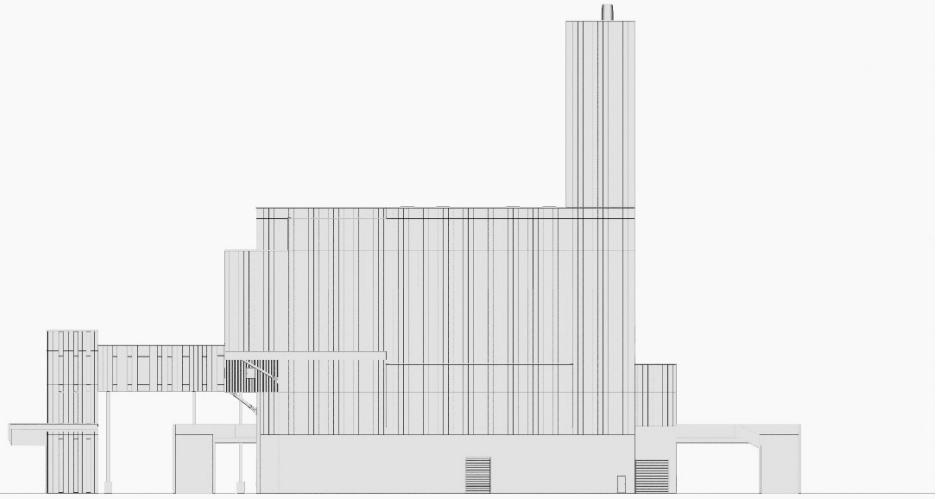
西面



北面



南面



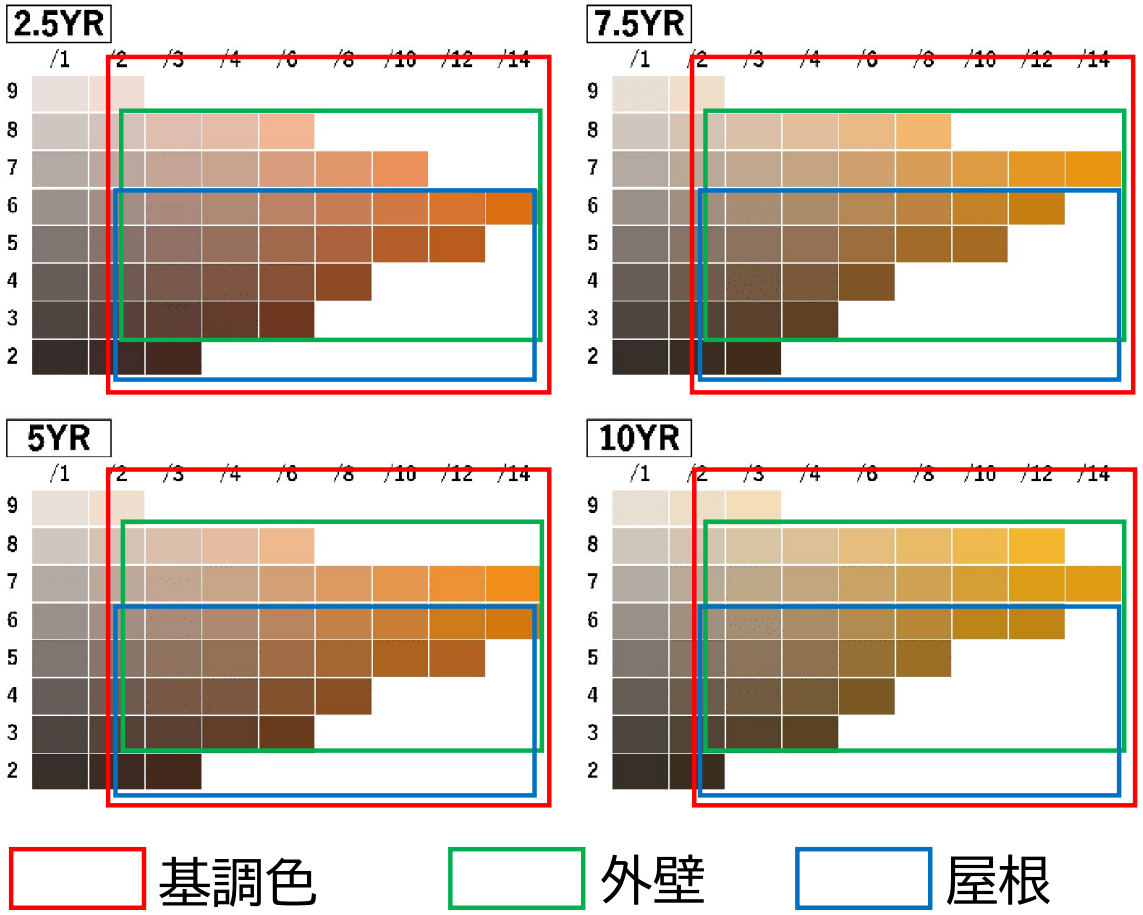
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（５）

配色計画

中間報告書 p.1-21（p.21）

中央市景観形成ガイドライン（基調色の規定）

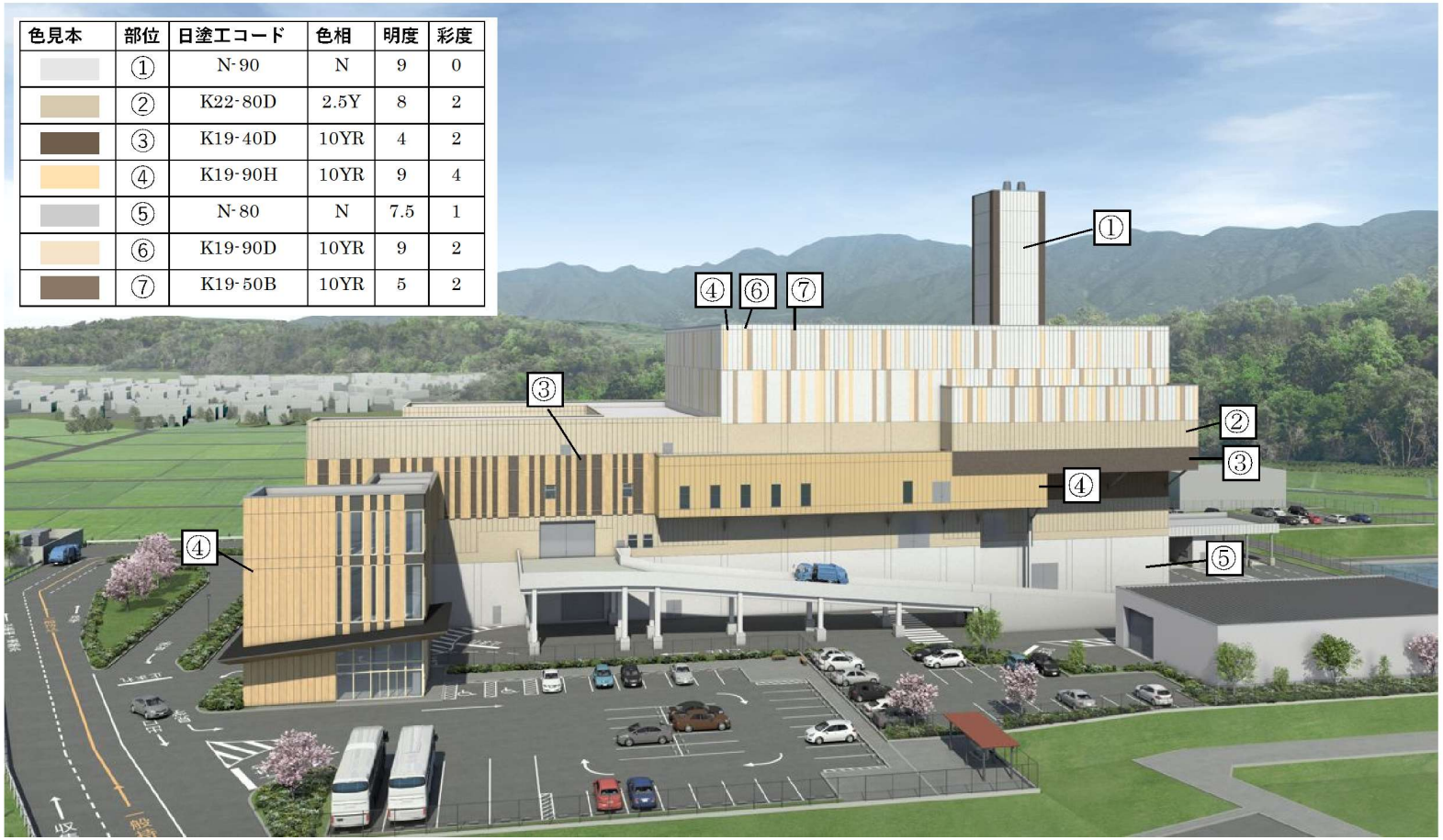
- YRを基本とし、彩度は1.5以下とすること
- 外壁の明度は3～8、屋根の明度は6以下とすること
- 無彩色はN6～N8とすること



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（６）

配色計画４案　原案

色見本	部位	日塗工コード	色相	明度	彩度
	①	N-90	N	9	0
	②	K22-80D	2.5Y	8	2
	③	K19-40D	10YR	4	2
	④	K19-90H	10YR	9	4
	⑤	N-80	N	7.5	1
	⑥	K19-90D	10YR	9	2
	⑦	K19-50B	10YR	5	2

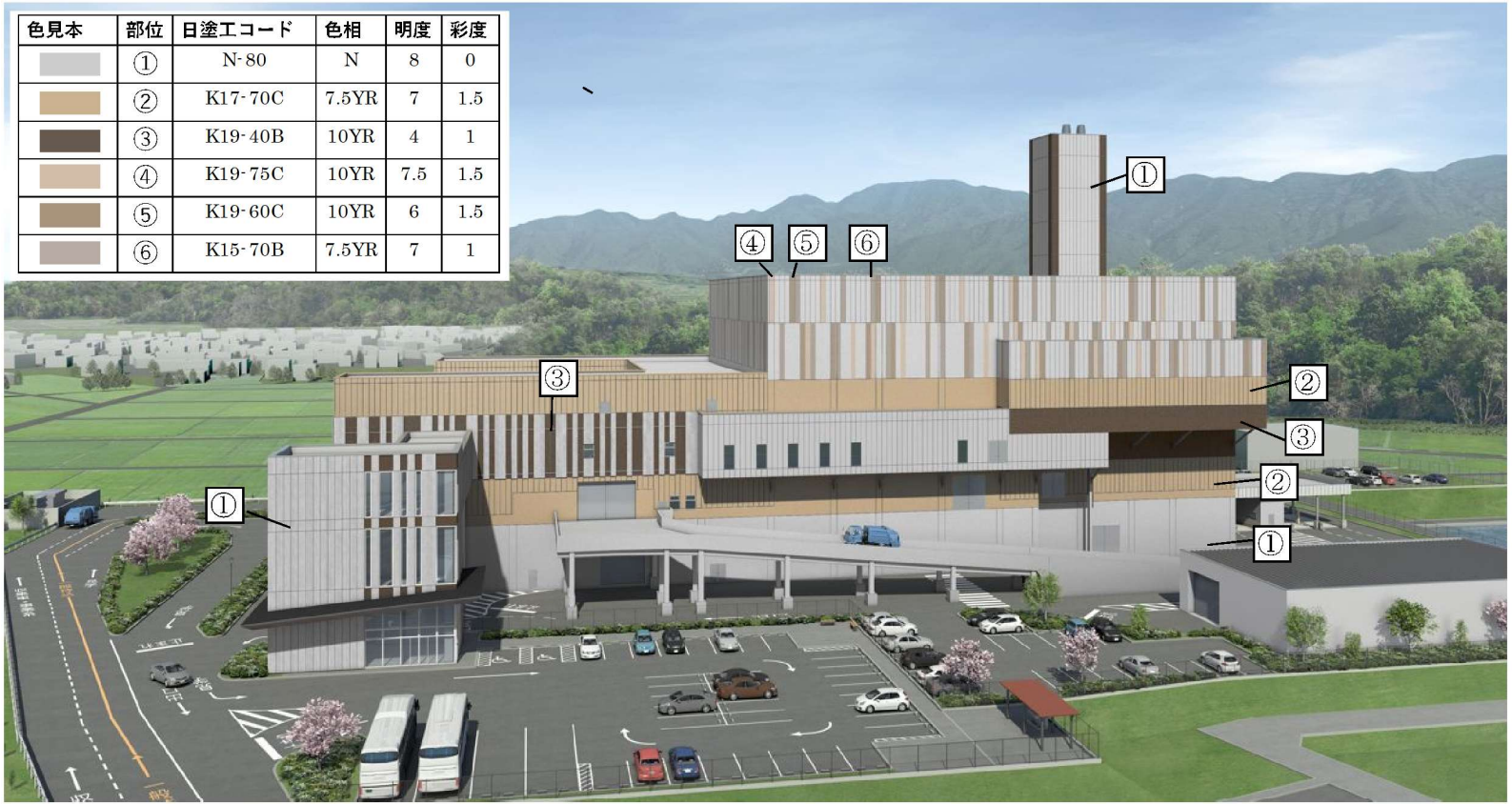


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（７）

配色計画４案　検討案①

田園にやさしく溶け込む、穏やかなアースカラー外観

色見本	部位	日塗工コード	色相	明度	彩度
	①	N-80	N	8	0
	②	K17-70C	7.5YR	7	1.5
	③	K19-40B	10YR	4	1
	④	K19-75C	10YR	7.5	1.5
	⑤	K19-60C	10YR	6	1.5
	⑥	K15-70B	7.5YR	7	1

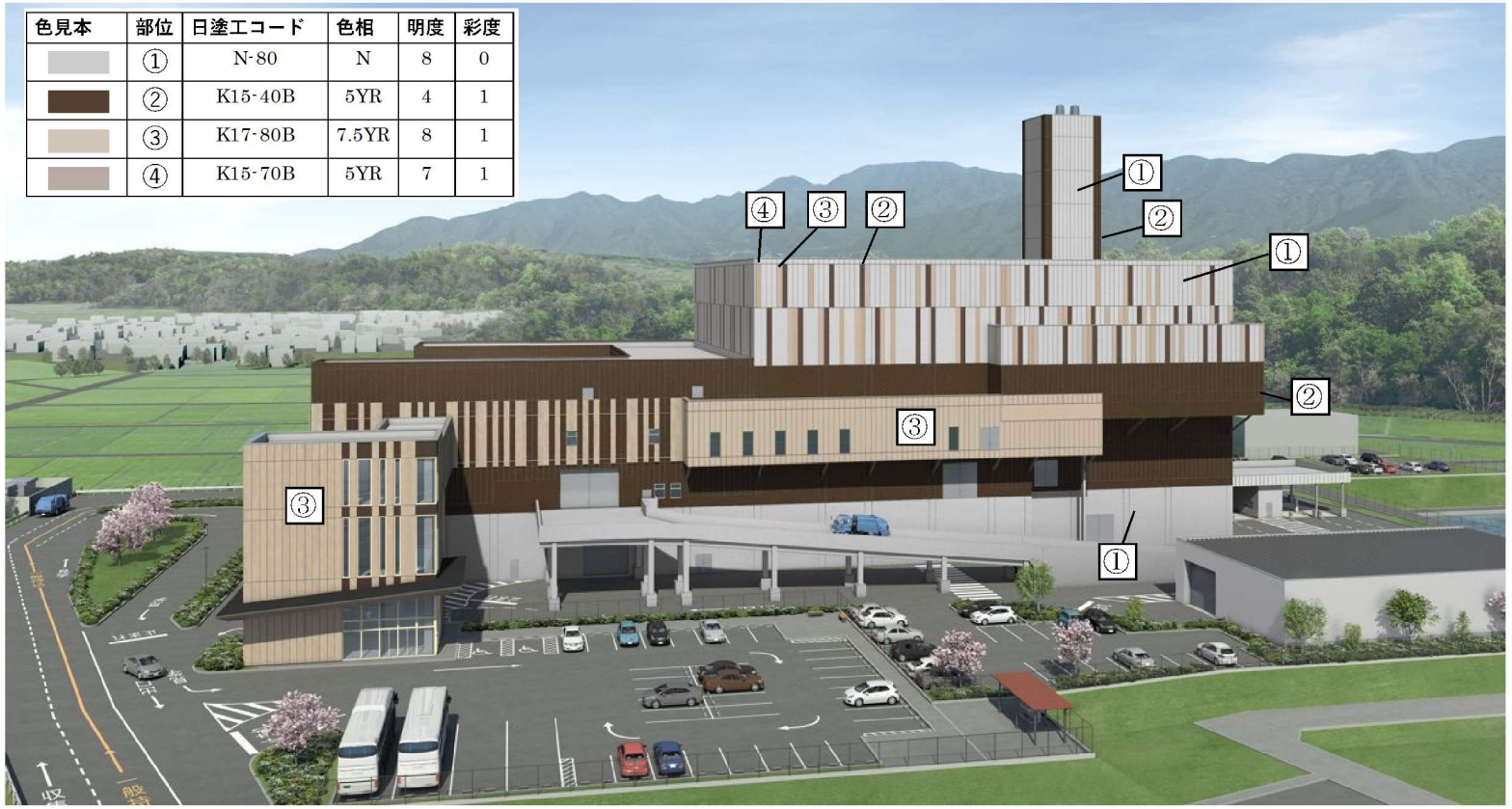


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（９）

配色計画４案　検討案②

明度差を活かした、落ち着きと奥行きのある外観

色見本	部位	日塗工コード	色相	明度	彩度
	①	N-80	N	8	0
	②	K15-40B	5YR	4	1
	③	K17-80B	7.5YR	8	1
	④	K15-70B	5YR	7	1

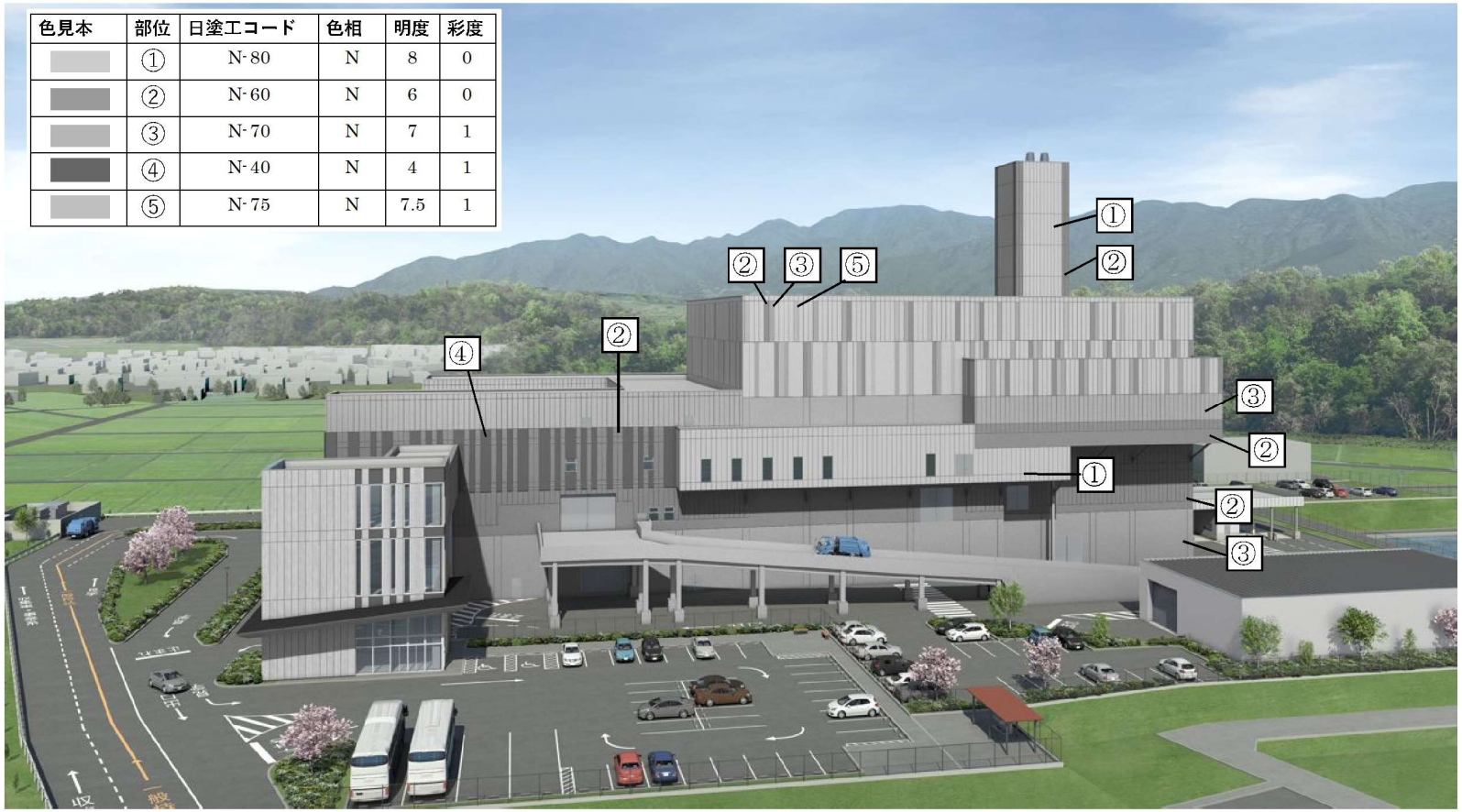


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（８）

配色計画４案　検討案③

シンプルに際立つ、モノトーン外観

色見本	部位	日塗工コード	色相	明度	彩度
	①	N-80	N	8	0
	②	N-60	N	6	0
	③	N-70	N	7	1
	④	N-40	N	4	1
	⑤	N-75	N	7.5	1



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（９）

配色計画４案の比較

VP1地点（笛吹川堤防道路）からの眺望予測（夏季）

原案



検討案①



検討案②



検討案③



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（10）

配色計画４案の比較・選定理由

VP1地点（笛吹川堤防道路）からの眺望予測（冬季）

原案



検討案①



検討案②



検討案③



５．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（11）

配色計画４案の比較・選定理由

施設全体を見渡せるVP1 笛吹川堤防道路からの眺望景観予想図を基に、選定を行った。配色計画は、4案のうち、検討案②を採用する。

【選定理由】

1. 煙突高を59.0mとすることにより、スカイラインの分断は無くなった。
2. 原案は、施設整備事業を請け負ったプラントメーカーによる初期提案であるが、一部の配色に「中央市景観形成ガイドライン」に適合しない色相が含まれている。
3. 検討案①～③は、いずれも「中央市景観形成ガイドライン」の指定する基調色に合致しており、景観面での影響は緩和される配色となっている。
4. このうち検討案②による配色が、背景となる山地の樹林への溶け込みに優れている（特に冬季の晴天時）。

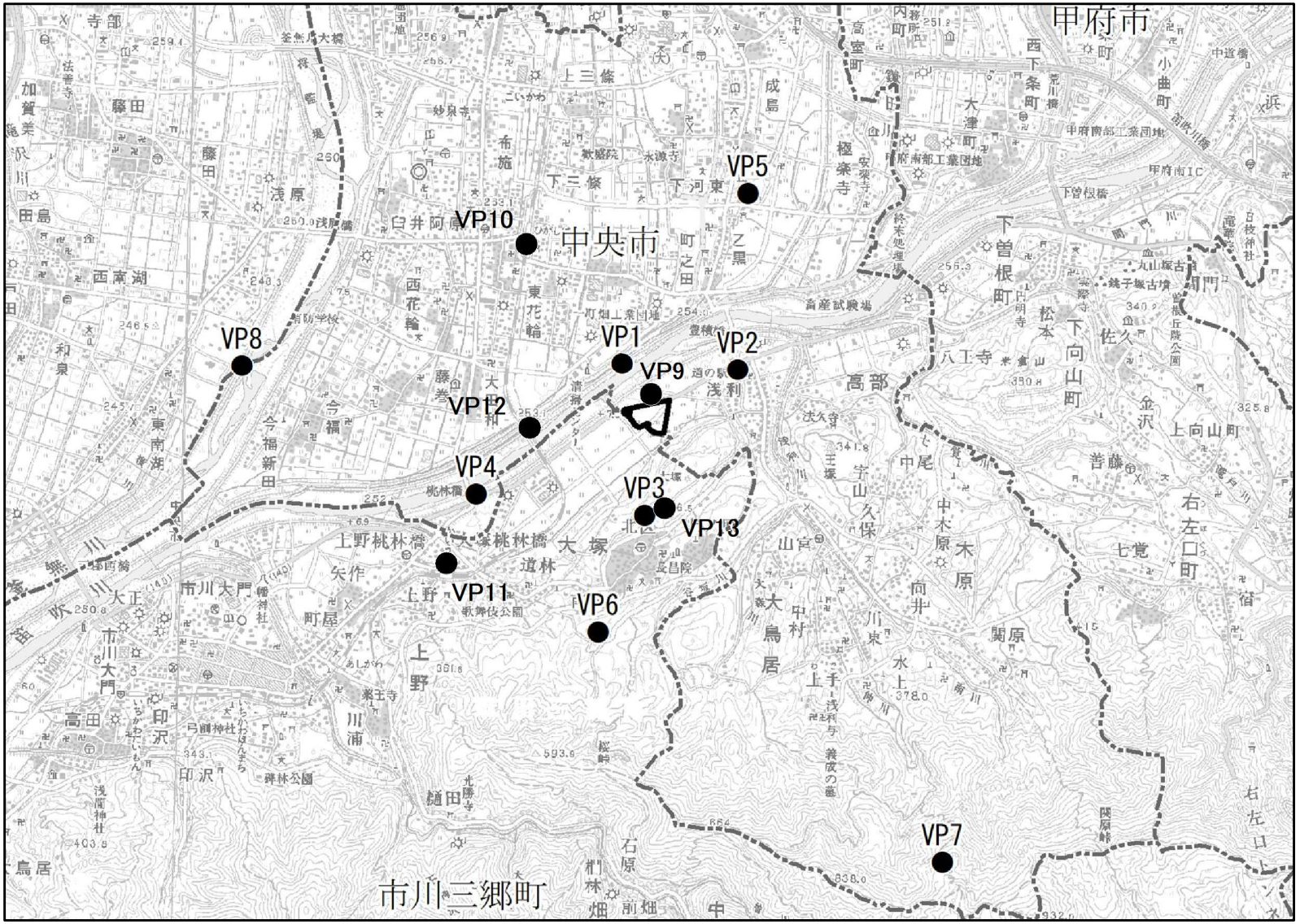
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（12）

その他の検討事項

検討事項	検討結果
煙突の断面形状を面取りして、八角形にすることを検討する	煙突外筒の太さは、面取りして八角形としても、内筒との関係から、細くすることはできない。 現在の煙突の太さで八角形にすると、柱を増やす必要があり、設計の大幅なやり直しとなる。 また、外装材を付けて八角形に仕上げることも可能だが、現状よりも煙突が太くなる。 以上から、煙突断面を八角形する利点はないと判断した。
屋上緑化・デッキ緑化等の実施を検討する	屋上緑化については、建設費の高騰、物価スライドによる工事費の増額が見込まれ、屋上緑化に伴う建物の構造強化や防水工事など建設費がさらに増額することは行えないと判断した。 デッキの緑化については、建設費高騰とともに、消防法や避難経路の制約があるため、難しいと判断した。
パース図の再現精度を確認するため、現地で塗装したパネルを背景とともに撮影した写真を撮影する。パネルは日光が当たっている場合と、陰になっている場合の2通り。	パネル作製時間と費用の関係から、パース図、フォトモンタージュを基に配色計画を決定した。 パネルによる現地での確認は、土木建築工事がある程度進んでから実施予定。

5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（13）

予測：検討案②に基づくフォトモンタージュ作成地点位置



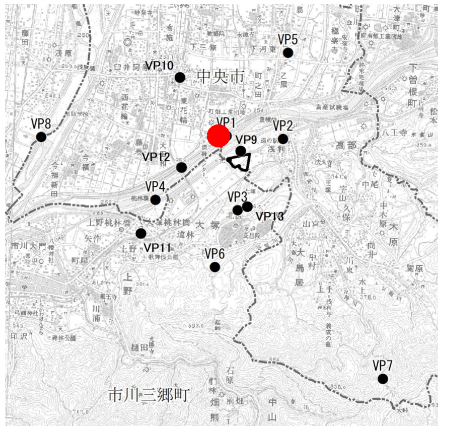
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（14）

予測：VP1地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP1
地点名	笛吹川堤防道路
方向・距離	対象事業実施区域から北　約500m
景観区分	近景



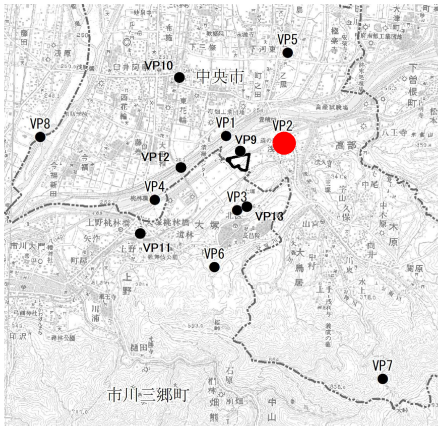
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（15）

予測：VP2地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP2
地点名	道の駅とよとみ
方向・距離	対象事業実施区域から北東　約600m
景観区分	近景



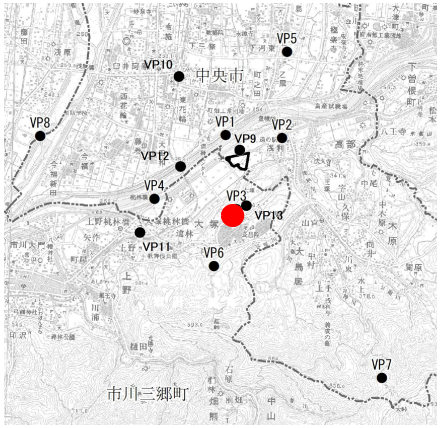
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（16）

予測：VP3地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP3
地点名	波場公園
方向・距離	対象事業実施区域から南　約840m
景観区分	中景

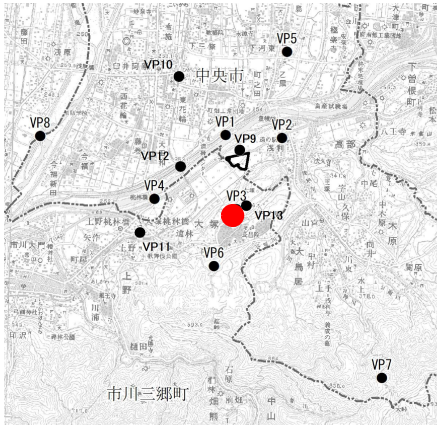


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（17）

予測：VP3地点からのフォトモンタージュ



地点番号	VP3
地点名	波場公園
方向・距離	対象事業実施区域から南　約840m
景観区分	中景



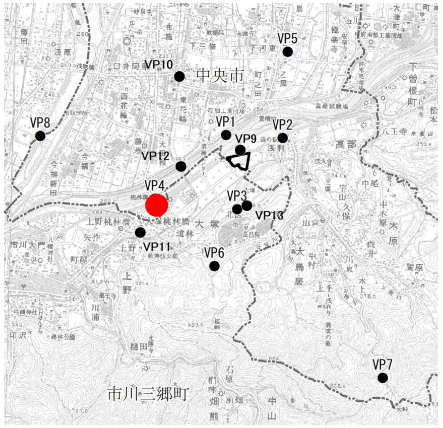
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（18）

予測：VP4地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP4
地点名	桃林橋南詰交差点付近
方向・距離	対象事業実施区域から西南西　約1.7km
景観区分	中景



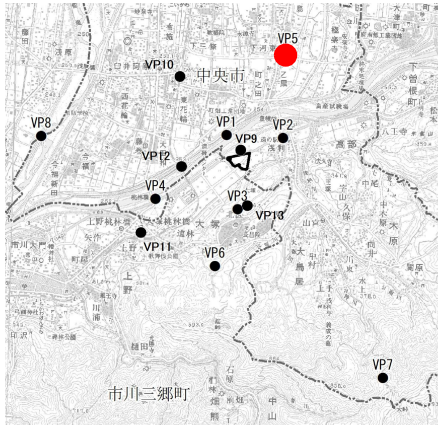
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（19）

予測：VP5地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP5
地点名	玉穂ふるさとふれあい広場
方向・距離	対象事業実施区域から北北東　約1.8km
景観区分	中景



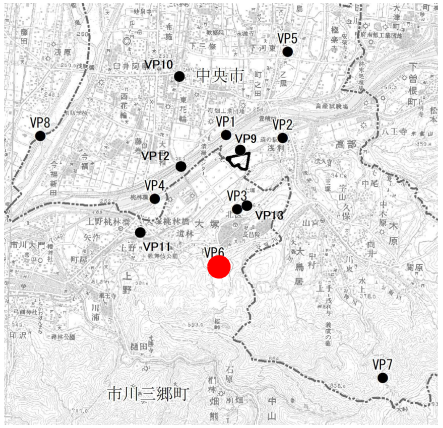
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（20）

予測：VP6地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP6
地点名	みたまの湯
方向・距離	対象事業実施区域から南南西　約1.9km
景観区分	中景



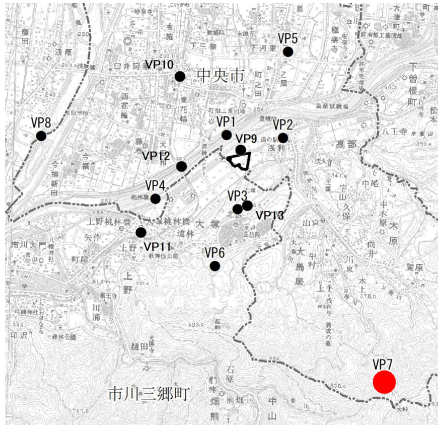
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（21）

予測：VP7地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP7
地点名	山之神社
方向・距離	対象事業実施区域から南東　約4.2km
景観区分	遠景

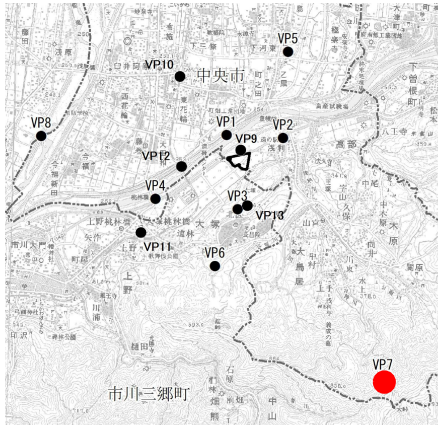


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（22）

予測：VP7地点からのフォトモンタージュ



地点番号	VP7
地点名	山之神社
方向・距離	対象事業実施区域から南東　約4.2km
景観区分	遠景



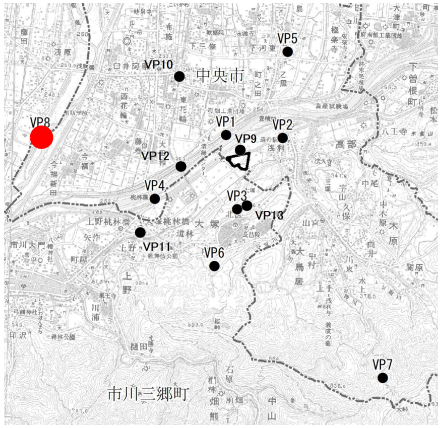
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（23）

予測：VP8地点からのフォトモンタージュ





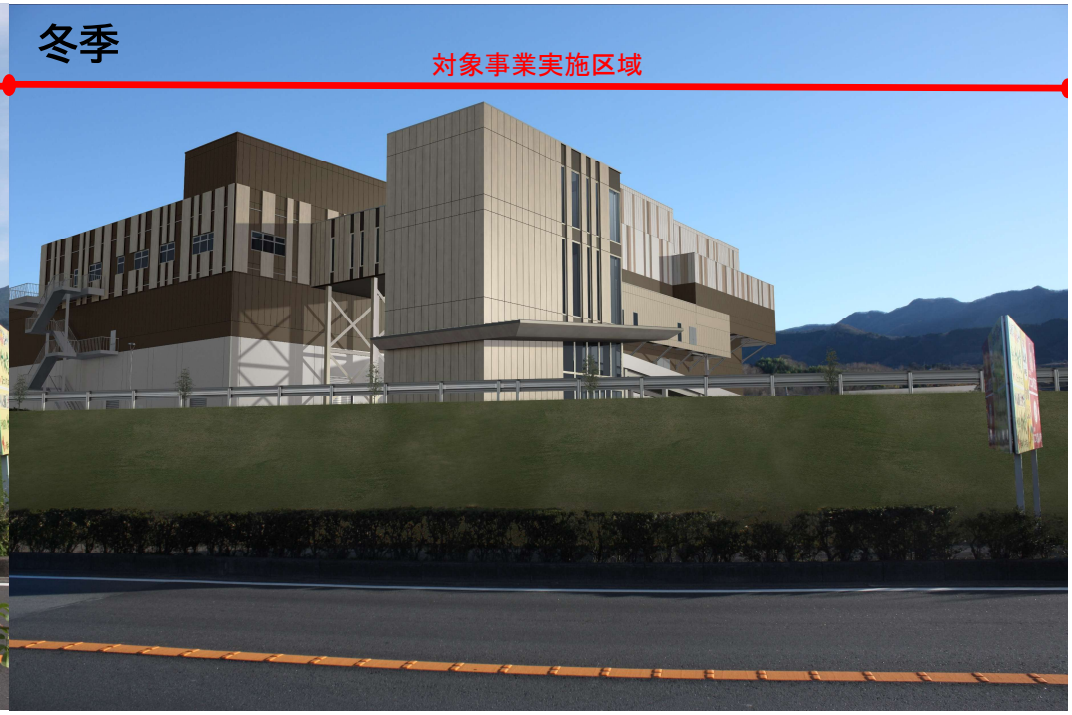
地点番号	VP8
地点名	釜無川堤防道路
方向・距離	対象事業実施区域から西　約3.0km
景観区分	遠景



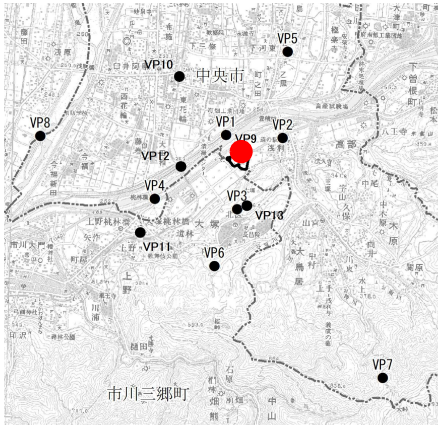
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（24）

予測：VP9地点からのフォトモンタージュ





地点番号	VP9
地点名	国道140号
方向・距離	対象事業実施区域から北　約20m
景観区分	近景

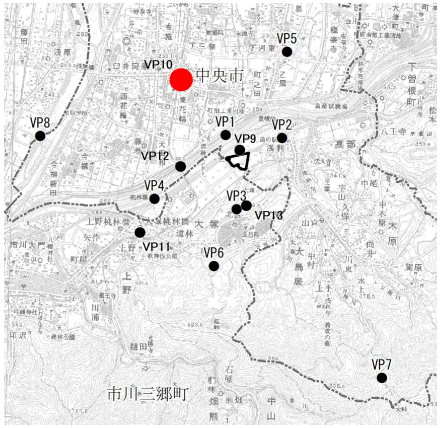


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（25）

予測：VP10地点からのフォトモンタージュ



地点番号	VP10
地点名	東花輪駅
方向・距離	対象事業実施区域から北西　約1.8km
景観区分	中景

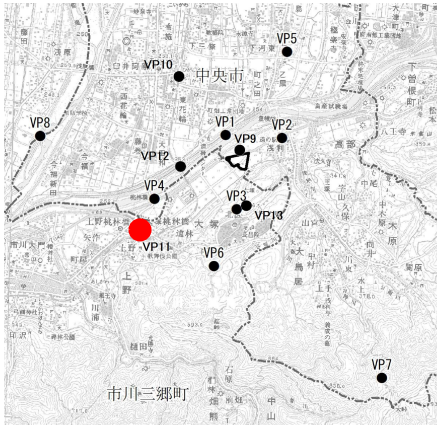


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（26）

予測：VP11地点からのフォトモンタージュ



地点番号	VP11
地点名	甲斐上野駅
方向・距離	対象事業実施区域から南西　約2.1km
景観区分	中景



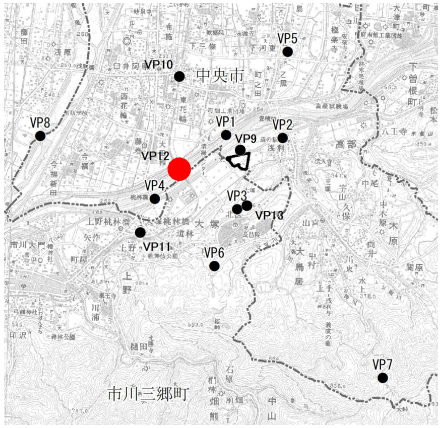
5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（27）

予測：VP12地点からのフォトモンタージュ

夏季



地点番号	VP12
地点名	JR身延線笛吹川鉄橋
方向・距離	対象事業実施区域から西　約1.0km
景観区分	中景

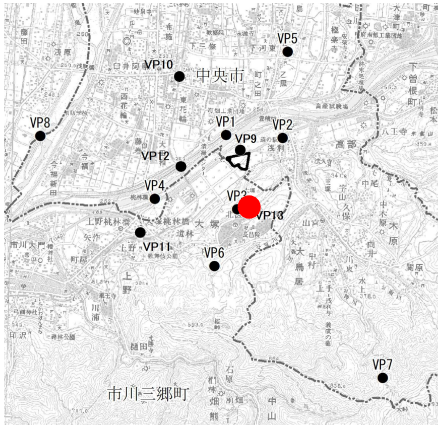


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（28）

予測：VP13地点からのフォトモンタージュ

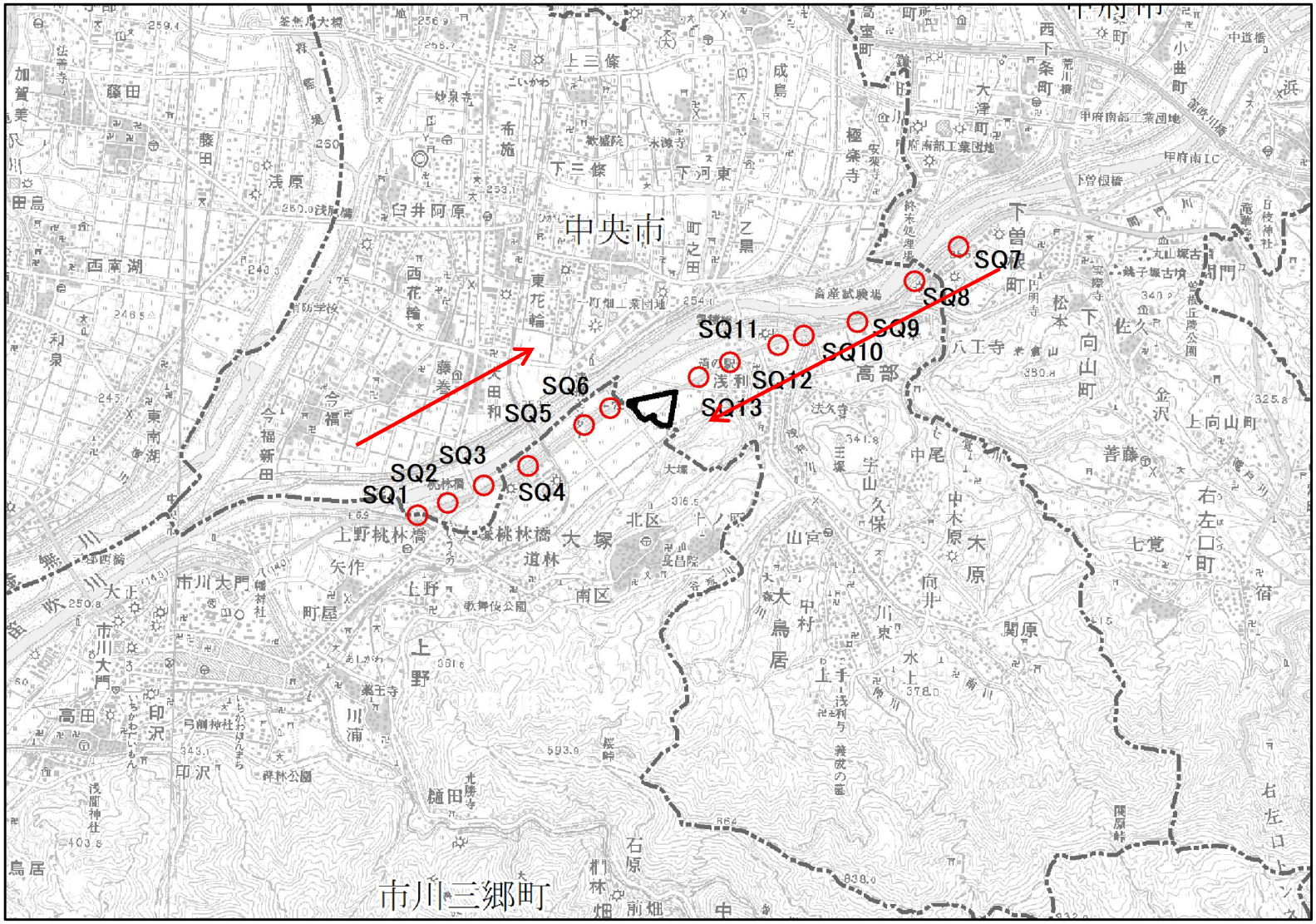


地点番号	VP13
地点名	伊勢塚古墳
方向・距離	対象事業実施区域から南　約600m
景観区分	中景



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（29）

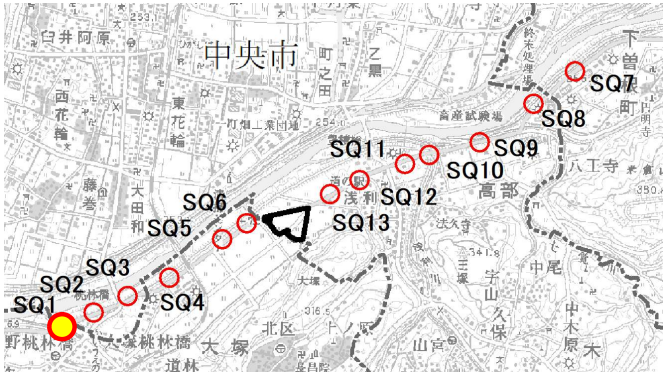
予測：検討案②に基づくシークエンス景観作成地点位置



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（30）

予測：シークエンス景観（SQ1地点）

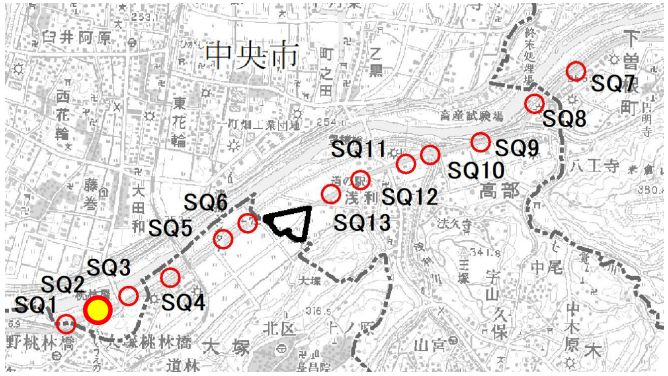




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（31）

予測：シークエンス景観（SQ2地点）

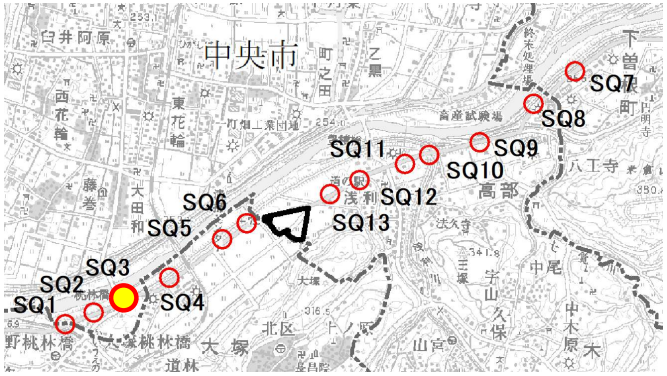




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（32）

予測：シークエンス景観（SQ3地点）

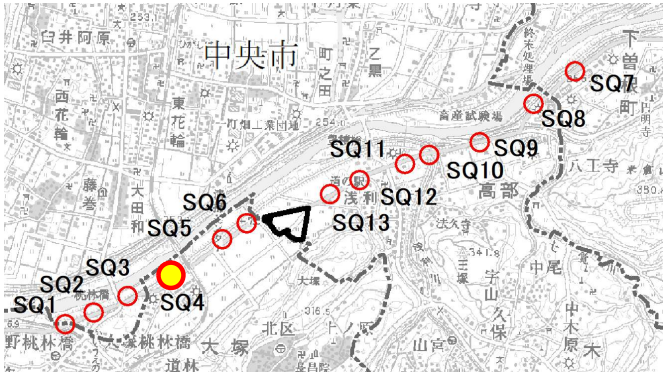




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（33）

予測：シークエンス景観（SQ4地点）

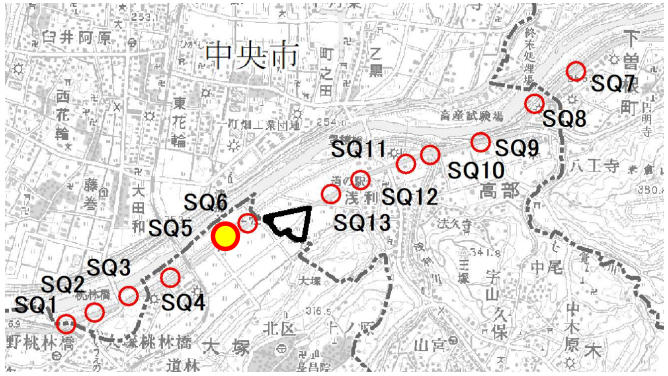




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（34）

予測：シークエンス景観（SQ5地点）

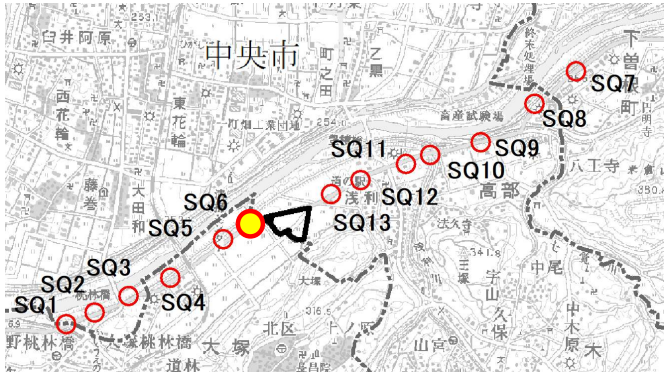




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（35）

予測：シークエンス景観（SQ6地点）

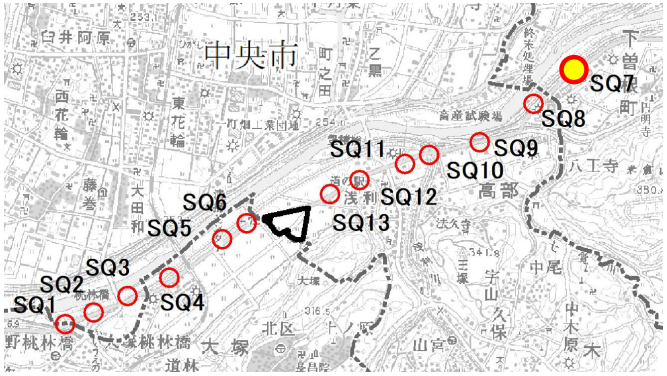




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（36）

予測：シークエンス景観（SQ7地点）



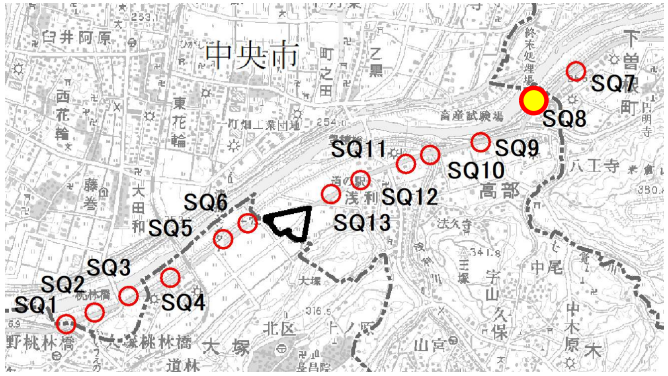


5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（37）

予測：シークエンス景観（SQ8地点）



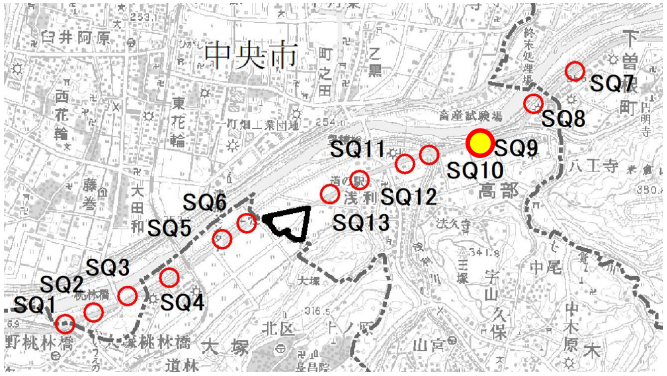
対象事業実施区域



5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（38）

予測：シークエンス景観（SQ9地点）

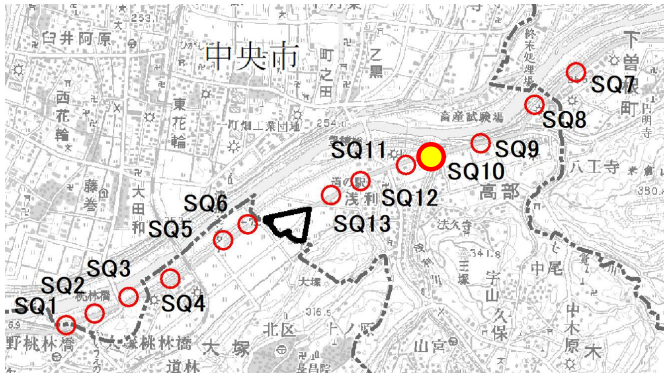




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（39）

予測：シークエンス景観（SQ10地点）

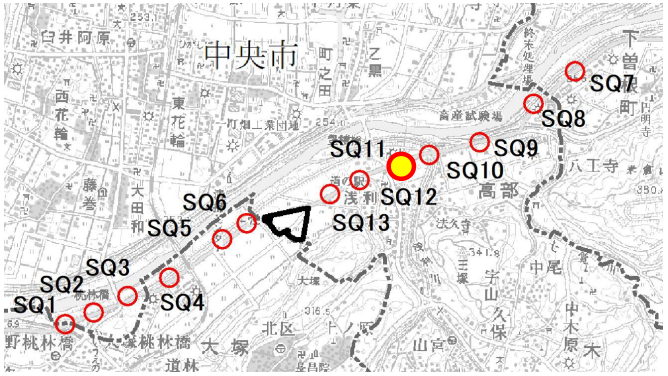




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（40）

予測：シークエンス景観（SQ11地点）

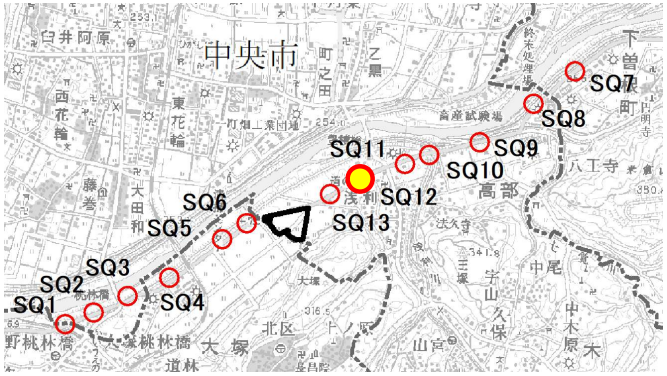




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（41）

予測：シークエンス景観（SQ12地点）

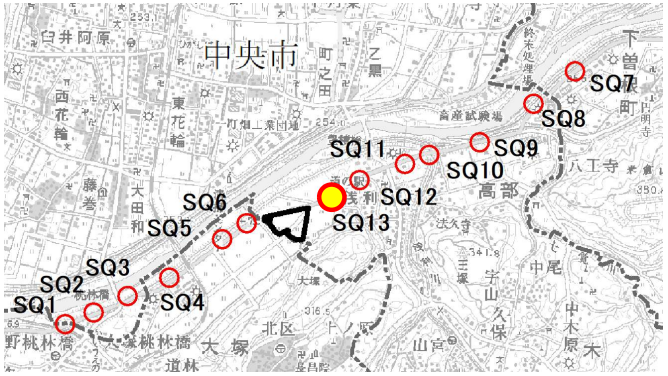




5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（42）

予測：シークエンス景観（SQ13地点）





5．施設形状・色彩等の具体化内容及び環境影響評価（43）

予測結果の概要

■ 圧迫感
眺望の変化が最も大きい地点はVP9となり、嵩上げされた法面の天端の仰角は約10°、道路側に配置されたごみ処理施設エントランス棟の天端の仰角は約30°となる。煙突は見えない。

■ スカイラインの分断
煙突高が59mとなることから、多くの地点でスカイラインを分断することはなくなる。

■ 色調
「中央市景観形成ガイドライン」に従った色調としたことにより、背景に溶け込み、眺望景観の変化の程度は小さくなる。

今後は、外構計画（建屋周辺の植栽計画）の検討により、圧迫感の影響軽減を図る

6．事後調査の結果、環境保全措置の再検討（１）

環境配慮事項の実施状況

中間報告書 p.6-1 (207)～p.6-25（231）

環境配慮事項	実施状況
散水、清掃	実施中
シート等による仮置土の養生	実施中
防じんネット、仮囲いの設置	実施中
低騒音・低振動機器の導入	実施中
環境管理（モニタリング）	未実施
アイドリングストップ	実施中
工法の選定	実施中
運行計画（車両集中調整）	実施中
濁水処理	実施中
濁水処理機能の維持	実施中
水質の変化防止	実施中

環境配慮事項	実施状況
周辺環境の撹乱防止	実施中
繁殖影響、生息個体・環境への影響緩和	実施中
ロードキルの発生防止	実施中
建設副産物の資源化	実施中



シートによる仮置土養生

6．事後調査の結果、環境保全措置の再検討（２）

環境保全措置の実施状況

中間報告書 p.6-1 (207)～p.6-25（231）

環境保全措置	実施状況
大規模な散水の抑制	実施中
仮設濁水処理設備の設置・運転	未実施
陸上植物保全対象種の移植	実施中
陸上動物保全対象種の移設	失敗 再検討中
水生生物保全対象種の移設	実施中
廃棄物発生が少ない工法の選定	未実施
渋滞する交差点の迂回搬入	未実施



ウスゲチョウジタデの仮移植



ミナミメダカの仮移設

6．事後調査の結果、環境保全措置の再検討（３）

環境保全措置の再検討

中間報告書 p.8-1（241）

■ コウフオカモノアラガイに係る環境保全措置の再検討

- 個体採取し、仮移設地にて一時飼育中に全個体死滅。寿命によるもの。繁殖できず、世代交代ができなかった
- 専門家からは、対象事業実施区域外から環境創出箇所への個体の移設、及び対象事業実施区域内の表土の敷設（表土移植）が有効との見解が示される。
- 当該保全措置の実施が現存するコウフオカモノアラガイの生息環境の攪乱に繋がる懸念あり。

現時点では結論を下さず、令和8年6月以降に実施する調査結果に基づき、対象事業実施区域外の確認地点における生息状況、創出環境への進入可能性、創出環境に移設する場合のリスク等を勘案し、最終的な環境保全措置を決定する。



コウフオカモノアラガイの飼育ケース



飼育ケースを設置した冷温庫

７．総括（１）
中間報告書（１回目）の報告事項

■ 中間報告書（１回目）の報告事項

- 創出環境の構造及び芝生広場の構造について具体化した計画内容、それに基づき行った環境影響評価の結果、環境保全措置の内容を報告
- 施設の形状・色彩等について具体化した計画内容を報告
- 令和7年12月までに実施した環境配慮事項及び環境保全措置の実施概要を報告

■ 本技術審議会での提示事項

- 施設の形状・色彩等について具体化した計画内容に基づく環境影響の予測結果を提示

7．総括（２）
今後の課題

■ 中間報告書（２回目）の報告予定事項

- 施設の形状・色彩等について具体化した計画内容、それに基づき行った環境影響評価の結果、環境保全措置の内容を報告
- 造成工事中に実施した環境配慮事項及び環境保全措置の状況を報告
- コウフオカモノアラガイに係る環境保全措置の再検討について経過を報告